

MARUICHI

丸一金属工業株式会社

余談 1 年目 Ver.1.05

著作：吉村 郁祐

丸一金属工業(株) 会議資料より「余談」タイトル一覧

平成 18 年 9 月～平成 19 年 8 月の 1 年分

- 第 1 話 平成 18 年 9 月 5 日 ● 「藤」の付く苗字について
- 第 2 話 平成 18 年 9 月 12 日 ● 「茶」と「ティー」(TEA) の関係から
- 第 3 話 平成 18 年 9 月 20 日 ● 外来語と日本語
- 第 4 話 平成 18 年 9 月 26 日 ● 道具の西洋、東洋
- 第 5 話 平成 18 年 10 月 3 日 ● 風呂敷の文化
- 第 6 話 平成 18 年 10 月 19 日 ● チャリンコの由来
- 第 7 話 平成 18 年 10 月 17 日 ● すし屋の湯呑みはなぜ大きく分厚い？
- 第 8 話 平成 18 年 10 月 23 日 ● ゲンをかついだ商人
- 第 9 話 平成 18 年 10 月 31 日 ● 日本酒余話
- 第 10 話 平成 18 年 11 月 7 日 ● トマトジュースは甘かった！？
- 第 11 話 平成 18 年 11 月 14 日 ● 白眼があるのは人類だけ！？ (目は口ほどに物を言い・・・)
- 第 12 話 平成 18 年 11 月 21 日 ● 豆腐は偶然の産物！？
- 第 13 話 平成 18 年 11 月 18 日 ● ウィルスの恐ろしさ
- 第 14 話 平成 18 年 12 月 5 日 ● 慢心と優越感のもたらすもの (私見)
- 第 15 話 平成 18 年 12 月 12 日 ● 慢心と優越感のもたらすもの (私見) (続き)
- 第 16 話 平成 18 年 12 月 21 日 ● 「しめ縄」奇談
- 第 17 話 平成 18 年 12 月 26 日 ● 身近な漢字で珍しい苗字 (名字)
- 第 18 話 平成 19 年 1 月 9 日 ● 「胸焼け」はなぜ起こるの？
- 第 19 話 平成 19 年 1 月 16 日 ● セルシオ秘話
- 第 20 話 平成 19 年 1 月 23 日 ● ラーメン奇談 その 1 / 5 (チャルメラ)
- 第 21 話 平成 19 年 1 月 30 日 ● ラーメン奇談 その 2 / 5 (魔法のラーメン 1)
- 第 22 話 平成 19 年 2 月 8 日 ● ラーメン奇談 その 3 / 5 (魔法のラーメン 2)
- 第 23 話 平成 19 年 2 月 13 日 ● ラーメン奇談 その 4 / 5
- 第 24 話 平成 19 年 2 月 13 日 ● ラーメン奇談 その 5 / 5

- 第25話 平成19年2月20日● 越後屋商法
 第26話 平成19年2月27日● 商品名、社名よもやま話
 第27話 平成19年3月6日● 日本国の優柔不断は置いてきぼりを生んでしまう
 第28話 平成19年3月12日● 生きている地球1
 第29話 平成19年3月20日● 生きている地球2
 第30話 平成19年3月27日● 生きている地球3

おまけ ～追記（環境と自転車）～

- 第31話 平成19年4月3日● 桜よもやま話
 第32話 平成19年4月10日● ウスターソースはなぜウスター？薄いからとちゃうのん？
 第33話 平成19年4月17日● アメリカの「日本酒」
 第34話 平成19年4月24日● 夏もちい〜かづく八十八夜♪
 第35話 平成19年5月1日● シルバーウィークもあった!？
 第36話 平成19年5月8日● お札^{きつ}から消えた聖徳太子(その1/2)
 第37話 平成19年5月15日● お札^{きつ}から消えた聖徳太子(その2/2)
 第38話 平成19年5月22日● 中国の開放路線に乗せられて（独断と偏見？の私見）(その1/3)
 第39話 平成19年5月29日● 中国の開放路線に乗せられて（独断と偏見？の私見）(その2/3)
 第40話 平成19年6月5日● 中国の開放路線に乗せられて（独断と偏見？の私見）(その3/3)

おまけ 下水油ラーメン…下層直撃、中国「食の危険」

- 第41話 平成19年6月13日● そんな事とは「つゆ」知らず・・・
 第42話 平成19年6月19日● 「綾町^{あやちよう}」が示唆するまつりごとのあり方 ～夜逃げの町～
 第43話 平成19年6月26日● 「綾町^{あやちよう}」が示唆するまつりごとのあり方 ～大切な事～

おまけ 中国自転車産業の現状

- 第44話 平成19年7月3日● 平野郷^{ひらのごう}（杭全^{くまた}神社）の夏まつり

おまけ 平野郷の夏まつりの日程と内容など

- 第45話 平成19年7月10日● 東京ディズニーランドちょっといい話
 第46話 平成19年7月17日● ラムネ瓶 ～とことん環境に優しくった究極の容器～
 第47話 平成19年7月24日● 「いやあ〜んH!!」

おまけ 最近の企業倒産の特徴など

- 第48話 平成19年7月31日● お金の集まるところに^{うごめ} 蠢く？お金が集まるシクミを創る？
 第49話 平成19年8月7日● アナウンサー そのむかし、よもやま話
 第50話 平成19年8月21日● 「ステテコ」よもやま話

- 第51話 平成19年8月28日● 信州の名物「野沢菜」は大阪からお嫁入り!？

おまけ 原材料高騰と企業

おまけ ～丸一年～

おまけ 地震が来たらどうするか今からできること、しておくべきこと～

※私の兄の文献が基本で、19年5月25日の全体教育に使用した資料です

余談第 1 話

● 「藤」の付く苗字について

元々日本人は、苗字が無く、今で言う、下の名前しか無ありませんでした。

その昔、飛鳥時代（600年頃）、皇室（朝廷）に次ぐ地位の高い一族は、藤原氏と言うことでまつりごとなど全般を取り仕切っていたと言います。

しかし「藤原」と言う苗字が増えすぎた為に、なんらかの位（くらい）の識別が必要となったらしいのです。（この「藤原」は、何の役目をする人々なのか？が判らなくなってきた）

そこで、朝廷の世話やまつりごとを取り仕切る一族には藤原の「藤」の一文字を取り、「佐藤」となったのだそうです。いまでは、日本で一番多い苗字なのです。

その流れを汲んで、伊勢神宮に関わる一族を「伊藤」

那須（福島県）地方の一族を「須藤」（役割不明）

近江（滋賀県）途方の一族は「近藤」（役割不明）

など、「藤」の付く苗字の一族は、大元は「藤原」の一族であった！？

識別の妙で、製品の番号も識別のために付けてあるのだが、一文字違い、扱いは仕様の違う製品となってしまうのです。

平成 18 年 9 月 5 日

余談第 2 話 平成 18 年 9 月 12 日

● 「茶」と「ティー」(TEA) の関係から

「お茶」は、中国から日本に伝わった生活文化で日常の生活に欠かせない物のひとつですが、「ティー」も同じく中国からヨーロッパに伝わった飲み物です。

そこで、言葉を少し注意深く見ると、ティー=TEA ⇒ テヤ ⇒ チャ ⇒ 茶 なのです。

すなわち、「茶」も「ティー」も言葉のみなもとが同じ中国からきたものです。

実に、アジア大陸の西から、東はヨーロッパ、アメリカまで地球を一周している言葉なのです。（シルクロード）

言語は、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語などヨーロッパ言語の源は、「ラテン語」

日本語、韓国語などは「中国語」

東南アジアのタイ語、ベトナム語、インド語などは、「梵語」

中近東のアラビア語などは、「イスラム文化圏からの言語」

それぞれに語源があります。

ちなみに、シュガー、ソファ、コットン、レモン、アルコールなど、日本にある外来語の語源はアラビア語です。（中近東→十字軍→欧州→世界へ、の流れ）

ところで、漢字を使う言葉はしゃべれなくても漢字のメモ書きのやり取りで OK なんて事もありえます。漢字には、たくさんの情報がその文字の中に詰まっているからです。

本題に戻ります。何の関係も無いと思われた事が、実は、深い結びつきがあると言うのは良くあることです。

第 3 話平成 18 年 9 月 20 日

● 外来語と日本語

前回は、世界の単語、言語の源について話をしましたが、今回は、日本にある外来語について少し述べま

す。

日常で、チョコレート、ビスケット、テレビ、ファイル、コピー、サイダー、コーヒーなんか思わずと知れた外来語です。日本語の便利な部分の一つに「カタカナ」があり、外来語や擬音（ガタガタとか、風のヒューヒューと言った音）などによく使われています。

上記のテレビは、テレビジョン（television）が縮められて「テレビ」となっているのですが、たとえば、ラムネ、ミシンのような外来語は、元来の発音から少し離れて意外なものが元の単語です。それでは、元は何だったのでしょうか？

古くからある外来語は、その当時の日本人が耳でとらえた音をカタカナや漢字を使って表しました。ミシン→ミンシン→マシン（machine）という訳で元々は、「機械」を意味するマシンが元々の語源です。では、ラムネは？ラムネ→レモネ→レモネード（lemonade）ということで元々はレモン水です。神戸のメリケン波止場の「メリケン」は、もうお分かりかも知れませんが「アメリカン（American）=アメリカ人」の船が出入りしていた波止場という意味です。

また、日本語では、それらの外来語を漢字で当てはめるのもよく有ります。

コーヒー→珈琲（元々は「可否」らしいです）、キリスト→基督、メリヤス→目利安（服地の名称）、チョコレート→貯古齡糖、千代古齡糖などなど・・・

国名も当て字が現在も活かされている事が多々あります。

フランス→仏蘭西、イタリア→伊太利、イギリス→英吉利、アメリカ→亜米利加・・・

それぞれの漢字を一つ使って、仏国、英国、米国などと使っているわけです。

ちなみに中国では、アメリカを「美利堅」と表示しニュースなどでは「美国」としてます。北海道の地名は元々のアイヌ言葉の音をそのまま漢字の当て字にしたものものが多いです。

最初に日本語は、「カタカナがあって便利」と言いましたが実は「漢字」「ひらがな」「カタカナ」という三種類の文字から構成される言語で、あいまいな表現も多く、恐らく世界で一番難しい言語と私は思います。それらを当たり前に使っている我々はすごい!!の一言です。また日本語は、微妙な言い回しや単語がたくさんあり、外国語には翻訳できない言葉も多々あるほどデリケートな言語でもあります。言葉（言語）は生き物。その人の人となり（経験や知識、配慮、姿勢、考え方）がでて来る恐ろしくも素晴らしい道具なのです。

第 4 話 平成 18 年 9 月 26 日

● 道具の西洋、東洋

我々日常で使う道具、たとえば調理器具、工具などは工夫を凝らされ、基本的には誰が使ってもそこそこの仕上がりになるように作られています。

例えば、野菜や果物の皮むき器は簡単に安全に使えるようになっています。かたや、包丁での皮むきは、コツや要領を身につけないと、むつかしく危険な場合もあります。

包丁は、切る、削る、むくなど 1 種類で色んな仕事をしてくれます。皮むき器は、皮をむく以外の仕事はできません。

このように、少ない種類の道具で多くの目的の仕事をこなすのが東洋の技（匠、技能）

仕事に合わせてその目的の為の道具を工夫するのが西洋の知恵と考えます（技術）。

昔ながらの日本の大工道具は種類も少なく、その中で道具を使いこなす技を磨き、一人前と呼ばれるようになりしました。木目を読み、そりや乾き具合から予測される事を頭に入れて木を加工し建物を作りました。

西洋では仕事に応じた道具を工夫し、効率よく仕事を覚え、合理的に建物を建てました。

木造の建築物で世界でもっとも古いのが奈良の法隆寺で約1300歳と言うことです。修復などがあったにせよ当時の大工の技は見事と言うほかありません。西洋には石積みの遺跡はあっても戦争があったにせよこのように古い木造建築はありません。片や、石積みの建物は、石と石のすき間にはカミソリの刃も入らないほどきちっとした作りを持ったものもあります。このように、古代からの技の違いが現在にも残っているのだと思います。

洋の東西を問わず、いい技、いい知恵それぞれを活かす工夫が大切です。

第 5話 平成18年 10月 3日

● 風呂敷の文化

先週は、道具の洋の東西についてお話ししましたが日本の道具文化で優れたものの日用品として風呂敷があります。昨今、スーパーのレジ袋の有料化、または、不要であれば特典が付くなどの形で環境に配慮する動きがありますが。その中で風呂敷文化が見直されています。

風呂敷の使い方で代表的な物は以下の通りです。

- ・平包み＝箱などを包むだけ
- ・1つ結び、2つ結び
- ・スイカ包み
- ・ビン1本包み、ビン2本包み

見て判りますように、箱物、丸物、長物など多様に対応できる優れたものです

時代劇などでは、大きな風呂敷がリュックサックにもなっています。

不要な時はコンパクトで、いざとなると多様に対応できる風呂敷の文化は先人の優れた知恵の一つでしょう。

第 6話 平成18年 10月 19日

● チャリンコの由来

自転車の方で、我々がよく使うのが「チャリンコ」「チャリ」などですが、中部地区では「ケッタ」。私の、四国の友人も「ケッタ」を使っています。

「ケッタ」は、ペダルをけて前に進むのでその呼び名があるのでしょうか。

ところで、「チャリンコ」という言葉は何からきたのでしょうか？

ベルの「ちゃりちゃり〜ん」からきた言葉と思っていましたが、他にも2つの説があるようです。

その1つは韓国語の「チャルンケ（自転車）」又は「チャジョンゴ」（実際の字は「自転車」）から由来すると言う説です。

また、韓国語で「子供のスリ」を意味する、まさに「チャリンコ」という言葉もあるそうで、スリをしてから自転車で逃げるから、とでも言うのでしょうか？

意外なところに説があるものです。

ちなみに、得意先のパナソニックの「ガチャリンコ」は、サドルが「ガチャッと上がって鍵がかかる自転車」と言う事でその名があるそうです（^^；

第 7話 平成18年 10月 17日

● すし屋の湯呑みはなぜ大きく分厚い？

どうしてすし屋の湯呑みは大きいのでしょうか？これは昭和の、特に戦前まで残っていた屋台の寿司屋の名

残りらしいです。それまで圧倒的に露天形態が多かった寿司屋は、熱いお茶を出来るだけ長時間「熱さ」を保つ為に湯呑みを分厚くし、保温性を高めました。また、客が、なんどもお茶のおかわりをしなくても良いように大きくなっているそうです。また、何度もお茶をつぐという手間を省く店側の事情にも合っているのが良いみたいです。

つまり、すし屋の湯呑みの大きいのは、昔の屋台のすし屋の智恵と言えるでしょう。

第 8 話 平成 18 年 10 月 23 日

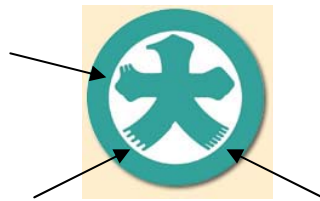
● ゲンをかついだ商人たち

昔から商売人はゲン（験）やえんぎ（縁起）を担ぐと言いますが、その一端をかいま見れるのがその商標です（今では、“ロゴマーク”などと外来語で呼びます）

心齋橋にある呉服問屋が前身の大丸百貨店は、今ではロゴを孔雀（くじゃく）をイメージしたデザインのものが主に使われているようです。昔ながらの丸の中に「大」の文字が入っているのを知っておられる方もおられるでしょう。なんの変哲もないロゴですが良く見ると「ゲン担ぎ」が潜んでいます。

それは何でしょうか？それは、筆で書いたような「大」の次の跳ねの部分を見ればわかります。跳ねの数がそれぞれ 七本－五本－三本 となっているのです。すなわち「七五三」。

七五三とは本来、祝儀に用いる数で、一・三・五・七・九の奇数をめでたいとし、その中の三つを取ったものです。



では、身近なところで近鉄百貨店はどうでしょうか？

「鉄」の字は本来「金」偏に「失」（うしなう）で鉄ですが、「失」の代わりに「矢」（や）となっていました。すなわち、「金を失う」のを嫌い「金を矢で射止める」としたのです。

今は、普通の「鉄」を使われるようになってしまいましたが・・・

その他に、古い「鐵」の字を充てて「鉄」という文字を使うのを避けている会社もあります。丸一の材料の供給元である「新日本製鐵」など鋼材を扱う会社もその理由から古い文字をそのまま充てていると聞きます。むかしからのゲンは現代にも生きているのでしょうか。

第 9 話平成 18 年 10 月 31 日

● 日本酒余話

世で言う酒飲みは、「左利き」（又は左党）といいますが、これは大工や鉾山の職人など、ノミを使う人達の間から生まれたといわれています。すなわち、右手は木づちを持ち、左手が「ノミ手」持つ。それを「飲み手」としゃれて、飲み手は「左利き」、すなわち酒を飲む人のことを「左利き」というようになったといわれています。

酔っ払いのことを「トラ」といいますが、これは笹藪（ささやぶに）にひそむ、どうもな虎から転じたといわれています。酒は古代から「ささ」ともいい、つまり笹（ささ）と酒（ささ）が同音であることから、「ささ」に囲まれた元気がよいトラ（酔っ払い）というわけです。

寅（トラ）の刻（午前3時から4時台）までのんでいる「のんべえ」だから「トラ」である、という説もあります。

また、冷酒と親の説教は後から回ると言われますが、日本酒には本来不純物が多くそれが体に良くない影響を与え、アルコールとの相乗効果で二日酔いになりやすいという俗説があります。それらの不純物は爛（かん）をする事により蒸発し、冷酒よりは酔いがマシだと言うことが言われていますが科学的な根拠はありません。

ちなみに蒸留酒である焼酎は不純物が少なく、二日酔いにはなりにくいと言われていますがこれもどうやら根拠に乏しいようです。

まあ、いずれにせよお酒は程々に楽しむのが良いようで・・・

第10話 平成18年 11月 7日

● トマトジュースは甘かった！？

トマトジュースは好き嫌いがはっきりした飲み物と思われませんが、嫌いな人も、まあ、お付き合いください。

初めて製品化されたのはアメリカで1923年のことです。始めは、色が茶色で見た目にも悪く市場で定着しなかったといえます。そこでトマトジュースの圧縮製法を開発し、真っ赤な色のトマトジュースが発売されると消費者に受け入れられるようになりました。

日本で初めて製品化されたのは10年後の1933年で当時の愛知トマト（現在のカゴメ）が製造しました。日本初のトマトジュースは、トマトジュースというものを知らない人達に飲んでもらうために糖分を加え甘くしたらしいです。なんか気持ち悪いですよね。

第一次世界大戦で一旦は生産が途絶えましたが、戦後は米国の配給物資で給食に取り入れられ、愛知トマトも生産を再開し現在に至っているそうです。

ちなみに、「カゴメ」は元々「籠目」が由来で、トマトを摘んで入れる籠の編み目の事だそうです。

第11話 平成18年 11月 14日

● 白眼があるのは人類だけ！？（目は口ほどに物を言い・・・）

私達の眼は、瞳と白眼がはっきりと区別できますが、他の哺乳類では白目は瞳とほぼ同じ色をしているか、または表から見える部分は瞳です。我々は白眼があるおかげで、人の視線はどこを向いているのかが良くわかりますが、自然界で生きるには遠目で見た時に視線がどちらに向いているのかわかることは致命傷なのです。つまり、襲う方、襲われる方の双方が生き残って行くために自然が与えた「機能」なのです。動物は群れをつくり、仲間や子供を守ることをしますがそれは群れが生き残るための知恵で、余り1頭、1匹のために存在するのでは無いようです。

片や人類は、高い知能を持ったおかげで、相互に助け合う事により生き残りをはかると言うさらに高度な知能（心）を持ち、そのために白眼が必要となりました。つまり、目は口ほどに物を言い、と言いますが、まさに目で高度なコミュニケーションを取るために白眼が必要となったわけです。ことばを持たない赤ん坊でも、人の眼を見て色々と判断できるのも実験で立証されていますし、日常でも体験された方は多いでしょう。それには白眼の果たす役割は非常に大きいのです。動物が主人公の漫画では、白眼も描いてあり表情を伝えてくれます。

眼は脳の一部であり、唯一、脳の一部がむき出しになっている「器官」ですが、その重要度はいまさら言うまでもありません。その中でも白眼は、自然が私達人類に与えてくれた贈り物なのです。

第12話 平成18年 11月21日

● 豆腐は偶然の産物！？

昔、中国で蒸した大豆をしぼって「豆乳」というものを飲む習慣があり、一部の人のための高級な飲み物だったと言います。ある日、調理場で豆乳を入れた瓶（かめ）を置いていたところ下においてある料理用のにがりの入った瓶にこぼしてしまい、その人は大層あわてたものの怒られると思い、黙ったままにしておいたそうです。しばらくして恐る恐るにがりの瓶を覗いてみると底に何やら白い塊があるではないですか・・・それを掬い上げるとプルプルになった豆乳があったのです。それを恐る恐る口にすると以外と美味しいではありませんか！！

それを帝に差し出したところ「おいしい」と、大そう褒められたそうです。

それが、現在の豆腐の始まりの説の一つと言われています。

近代の発明においても、失敗の中にも偶然に見つけた物が多いといえます。「災い（失敗）転じて福となす」のも人間の知恵と勇気と観察力のたまものでしょうか。

勇気を持たずにそのまま捨てていけば現在の豆腐は無かったのかも・・・！？

第13話 平成18年 11月18日

● ウイルスの恐ろしさ

エイズの報道がされ始めたのが約24～5年前と記憶しておりますが、その当時、日本では身におぼえの有る方々が保健所での無料検査を受けに急いだと言うことがありました（^^；

今日、全世界では約4000万人の患者若しくはキャリア（ウイルス保有者）がおり、現在8秒に1人＝1日約1万人が感染していると言われていました。

日本では約1万4千人の患者、キャリアが確認されていると言います。

各種ウイルスは元々それぞれの動物が固有の種をもっております。なんらかの拍子に他の生物に移り住み、その生物に適応するように進化し、その生物に悪影響を及ぼすようになる事もある訳です。

エイズウイルスは、その発見から数十年経ってもいまだ確立した治療法がありません。

エイズは抗体（ウイルスや病気と戦った印）が出来るまで2～3週間、発症まで数年かかるといわれておりますが、インフルエンザのように劇的に症状が現れるウイルスも存在します。

1900年の初頭に流行した「スペイン風邪」は、それまで人類がかかった事がないインフルエンザで、それに対する対抗手段を身体も医療も持っていなかったために大流行しました。

現在懸念されている一つに「鳥インフルエンザ」があります。これは鳥を媒体（まきちらす原因）とし、渡り鳥などで全世界にそのウイルス撒き散らす事が十分に予想されます。

ウイルスは絶えず進化、変化し、治療手段あざわらうかのように生き延びる恐ろしい一面を持っているわけです。それらが治療と対策を一層難しくしているのです。

冬に入ると風邪やインフルエンザの季節となります。手洗い、うがいをこまめにするのが最低限の予防手段でしょう。

第14話 平成18年 12月5日

● 慢心と優越感のもたらすもの（私見）

「勝って兜の緒を締めよ」ということわざがありますが、これに似た内容で「実る程、頭を垂れる稲穂か

な」という俳句があります。また、「衣食足りて礼節を忘れず」ということわざも類するものでしょうか。

いずれの言葉も、人は謙虚さを忘れずしっかりしなくてはいけないと説く言葉と思います。

人は、他人より優位に立つとほくそ笑む（内心喜ぶ気持ちがわく）ものです。

しかしながら、その瞬間に立場が逆転してしまう事が多いのです。

身近な例ではスポーツの世界で「まさかの逆転負け」や「まさかの敗退」という事が多々みられます。

優越感が芽生えると同時に「慢心＝スキ」が出来るのです。それは、心の構造上仕方のない事なのですが、それらを戒めるのが、この文章の最初に書いた言葉です。

優越感とは少し違いますが、心の緊張が解かれる状態は、さまざまなことに対する警戒の手をゆるめさせ、気付かぬ内に自分自身をおとしめてしまいます。

人には考える能力を与えられ、優越感も程ほどに・・・という能力が本来備わっているはずなのですが、昨今の日本では色々な方々が「天狗」になったり「慢心」したり「勘違い」されているように見受けられます。これは、永年の平和と繁栄がもたらせた「あだ花」といえるものの一つでしょうか。

「ローマは一日にしてならず」は、時の繁栄都市ローマは色々なことが優れており、そこまでなるのに努力の積みか重ねで到達したことへの称えを含んだ言葉と思います。

その繁栄に慢心する心を持った瞬間に、没落の芽がふいて来たのは言うまでもありません。

満足感と充実感とは、似て非なるものでもありました。

（次回に続く）

第15話 平成18年12月12日

● 慢心と優越感のもたらすもの（私見）（続き）

昨今、ニュースではいじめや自殺、殺人を始めとする暗いものが多いのは周知の如くです。また、事件とまでは行かないまでも異常な「現象」が多いのも事実です。

例えば、学校給食で「いただきます」「ごちそうさま」という言葉に対し、「食事時になぜ言わせるのか？ちゃんと給食費を払っているのだからおかしい」と怒鳴り込む親もおれば、給食費を支払わない親もいます。家庭の事情もある方もおられるのですが「給食が、もっとおいしかったら支払う」とか「義務教育だから支払わなくていい」とか訳の判らない屁理屈を言うそうです。親がそうなら、子供も考えがおかしくなります。

食事の「いただきます」「ごちそうさま」は、自然の恵みや食事を作った人たちに対する感謝の印であって、お金に対するものだけではありません。学校給食は、昔の食料が乏しい時代にできるだけ栄養のある食事を児童に食べてもらう国の配慮でしたが、同時に一斉に食事をする事により集団生活を学ぶ場でした。いまでは、成人病にかかる児童がいるくらい食料には恵まれています、が、「学ぶ」という役割は残っていなければならないと思います。

日本は、長い苦難の道のりを経て物理的に色々な事に恵まれるようになった一方、なくした物が多いのです。これが「文明が発達して、文化が衰退した」と言う事の一例です。

文化の衰退は、暗黙の良きルールを取り去り、良識をあざ笑うようになり、自然や人に対する「感謝」と「恐れ」「敬う気持ち」を忘れさせました。人は本来お互い助け合い感謝し認め合う事で支えあってきたはずですが、よきルールの喪失は「モラルの崩壊」をもたらし、お役人から子供まで訳の判らない人々を増殖させてしまいました。現状をみると今となつては勘違いとも言えるこの国の慢心や優越感にさまざまな便利な文明がからみあい「勘違い」や「増長」を生み、色々な弊害を生んでいると言えます。

参考として、学級崩壊は、ルールの無い学級がそうなっていると言う最近の調査結果があるそうです。暗黙の良きルールが少なくなった分、新たに条例のようなものを作らなくてはいけない情けない状態にも陥っていますが、基本的なルールが身に付いておらず、考え方の浅い方々の多い状態での条例は形だけのものが多いように感じます。

現在、それらを修正、修復して行こうとする機運がある事に期待と希望を持ちたいものです。人の振り見て我がふり直す姿勢も大切でしょう。

第16話 平成18年12月21日

●「しめ縄」奇談

お正月が近づくと新年を迎えるにあたり、神社などでは新しい「しめ縄」、家の玄関などには「しめ飾り」（大阪では「ごぼう」などとも言います）が飾られ、新たな年へ吉祥（きっしょ（う））をつけます。

しめ縄は本来、神前または神事の場に不浄なものの侵入を禁ずる印として張る縄です。

しめ縄を漢字で書くと「標縄」「占め縄」「メ縄」「注連縄」「七五三縄」「締め縄」と実にさまざまな書き方があります。

「標」「占め」「注連」は、縄をはって自分の領土である事を知らせる（注意をうながす）意味です。不浄なものがこの縄から入らぬようにとの意味合いでしょう。そういう意味でも「メ」も不浄なものが入らぬよう「メ（閉め）ている」という意味かも知れません。

また、「七五三」は、しめ縄のさがり（御幣（紙や わらで作った房）をしめ縄のねじり目の七目、五目、三目に区切って付けているからと言われています。「七五三」は、もちろんゲンかつぎの数字です。

「締め」は、読んで字のごとく、締めこんだ縄と言う意味でしょうか。

いずれにせよ、「締め込んだ縄」を語源とし、後でそれぞれの意味に当てはまる字を充てたと考えられます。

ちなみに、丸一の本社（平野倉庫）がある地元、平野の杭全神社の鳥居のしめ縄は、毎年正月の3日に当番の町が「だんじり」に載せて奉納し、5日にそのしめ縄を鳥居に飾りつけます。新年を清めた状態で迎えるはずの神社が、正月が明けてから新しいしめ縄を張るのは奇習と言っていいでしょう。

平成18年12月21日



※平成17年1月3日「しめ縄上げ」杭全神社の鳥居をくぐり、花（祝儀）に大阪メで応える創業の町域「野堂北組」のだんじり。だんじり前面には神社に奉納する「しめ縄」が据えられている。平野郷にはだんじりが9台有るので9年に一度、この当番が回る。

第17話 平成18年12月26日

● 身近な漢字で珍しい苗字（名字）

最近、「北風」さんという方にお会いしました。その方は、今のところ「西風」さんという方は知り合いにいますが、一度、「南風」さん「東風」さんにも是非会いたいと言われておりました。珍しい苗字だったので小学校の頃よくからかわれたけれども、仕事の上ではよく憶えてもらえるので社会に出てからは、とても徳をしたと言っておられました。

という訳で今回は身近な漢字でも読めないと思われる珍しい苗字を少しご紹介します。

先ほどの「南風」さんははえさん、「東風」さんはこちまたはあゆさんと読むのだそうです。

では、以下の1文字の苗字はわかりますでしょうか？

「九」さん、「井」さん、「洪」さん、「京」さん、「面」さん

順番にいちじくさん、いのもとさん、おおみずさん、かなどめさん、ほおつきさん

読めますか～？

「小鳥遊」さんは、たかなしさんで、鷹がいなくて小鳥が遊ぶ！？でしょうか。

「少林」さんは、わかばやしさん

なるほどと言う、しゃれの利いた読み方もありますね。

次に漢数字で「七五三」さん「九十九」さんはそれぞれ、しめさん（前回の「しめ縄」でもありましたね!）、

つくもさん

「明日」「湯井」「暖井」さんはすべて、ぬくいさん

「大戸」さんは、ねぎさん、「毛受」さんは、めんじょう、またはめんじゅさん

「原子」さんは、そのものずばりげんしさんですが、福井県に多い苗字で、まさか原子力発電所があるから、という訳ではないでしょう。苗字の方が発電所より古いですから…

それぞれ地方色があり、その地域特有の産物にもからめた読み方も見受けられます。

「年末」はゆっくりと、「正月一日」は「幸」ありますように。（それぞれ、としずえ、あお、さいわいですって～（^^）

恐らく、「正月一日」は、門松の緑が青々としているさまを表現したものと思われます。

最後に、「珍」さんは、めずらしさん

これもまた珍しい～。ちゃん、ちゃん♪

よいお年をお迎え下さい！！

第18話 平成19年1月9日

● 「胸焼け」はなぜ起こるの？

正月は、ゆっくり過ごされた事と思いますが、食べ過ぎ、飲みすぎで体調が今ひとつ、なんて言う方もおられるかもしれませんね。今回は、日常でありがちな「胸焼け」を取り上げて見ました。

胸焼けは、夜遅くに食事をしたり、脂っこいものを食べるたりすると起こりがちです。

胸焼けが頻繁に起こる人は、病気の可能性があるので一度検査の必要がありますが、今回は日常に起こる事について述べてみます。

胸焼けを起こし易い食べ物は、脂っこいものを始め、刺激の強いカレー、東南アジアの香辛料の利いた食べ物、また、意外にもトマトもそれに入ります。

日本の日常的な食べ物では意外や意外、焼き芋、おはぎ、団子などもその原因となる食べ物とされます。また、泡の出る炭酸系統の飲み物もその部類に入るそうです。

胸焼けは、胃酸が食道の逆流防止の部分から上にもどり、元々、酸に対する防御のしくみが無い食道を侵すことにより発生するそうです。

従って、食べすぎでは、逆流防止部分に圧がかかり、胃酸が上にもどる、また、脂っこいものや、団子のようなものでは、消化がしにくいので胃酸が活発に分泌され、胃が膨らんで胃酸が上に上ります。それらのもはよく噛んで胃の負担を少なくすれば軽減されるそうです。

また、夜遅くに食事をした場合には、食べ物が胃の下まで送らず胃の入り口、すなわち食道の出口付近にとどまりやすく同様に胃酸が上がってくるからだそうです。

胸焼け防止には、良く噛んで食べる、食後三時間してから寝る、上記食べ物の回数を減らすなどですが、寝る姿勢は左を下にすると、食道の出口に負担がかかりにくいので少しはマシらしいです。

焼肉を食べに行くと、帰りにガムをもらえる事があります。それは、ニンニクなどの臭いを抑えるだけでなく、ガムを噛む事により、唾液がさかんに出て消化を助け、胸焼けを抑える意味合いがあるそうです。「あそこの焼肉は、食べても胸焼けがしない」という評判を呼ぶ為の手段の一つでしょうか（^^；？

第19話 平成19年 1月16日

● セルシオ秘話

トヨタ自動車の旗艦車種「セルシオ」は発売当初、高級車種としては日本で欧米で爆発的に売れた車で、現在もその旗艦車種の地位は不動のものです。

それまで高級車種は、車体、エンジン共に大きく、その割りに音が静かである事が最低限の条件だったと思います。セルシオ開発にあたっては、特に「音、振動」に対する対策が徹底的になされました。それが「源流主義」と言われるものだったと記憶しています。

それまで、エンジン音などを抑えるのに、防音材などをふんだんに使い少なくとも車内には音が伝わりにくくし、振動を伝わりにくくする為に、振動を抑える材料も多用していました。いわゆる「臭いものにフタ」の考えだったわけです。

その当時の開発陣は、音、振動の元となる原因を除去する事により、それらを抑えるのではなく、できるだけ元から無くす事を考えました。機械音、振動の除去については、エンジン、足まわり部品の加工の精密さを上げる事により振動の原因を除きそれを実現しました。

また、ボデーまわりのプレス加工部品においては、車体とドアのすきま、継ぎ目を徹底的に分析し、高速走行した際の風切り音をも無くしたと言われていています。プレス加工では、最高級の加工精度と管理です。

原因の「源流」に対策をすることにより、「下流」での対策が軽微で済むようにしたのです。それが、「源流主義」です。

上記の加工精度は当時の技術水準ではかなり難しい要求で協力会社を始め、現場の方々は今までに無い苦勞をされたのは言うまでもありません。その要求に応えられた技術者、協力会社が生き残っているのです。また、その制振技術（振動をおさえる技術）がその後の開発に活かされているのは言うまでもありません。先を見据え、その時の殻を破ることが技術の進歩と革新と教えられます。

第20話 平成19年 1月23日

● ラーメン奇談 その1/5（チャルメラ）

寒い季節、チャルメラの響きに誘われてラーメンをすする方もおられる事でしょう。

チャルメラはポルトガルの楽器の名称なのですが、実際はその楽器ではなく中国に由来する楽器「^{とうじんふえ}唐人笛」と総称される木管楽器が原型といわれています。

昔は屋台の主が楽器を鳴らしており、最近では録音テープでチャルメラのメロディを流して「ラーメン屋が来ましたよー」って知らせてくれるのですが、あの独特のメロディはどこから来たのでしょうか？

その昔、豊臣秀吉が朝鮮半島への侵略をし、技能や技術、それに伴う人材の略奪などの行為をしたことがありました。(いわゆる朝鮮征伐です)

後に朝鮮との講和(和解)が成立し、江戸時代に朝鮮通信使が派遣される事となりました。

その通信使が朝鮮半島から九州に到着し、江戸に移動するときに演奏したのがこのメロディだったといわれています。

なぜそれが「ラーメン屋がきたよ〜」っていうお知らせの合図になったかはわかりませんが、このメロディにはなんとも言えない郷愁と味がありますね。

ちなみに、TOB(公開企業株買い付けによる企業買収)でニュースを賑わした明星食品の即席めん「チャルメラ」は、発売40周年だそうです。

第21話 平成19年1月30日

● ラーメン奇談 その2/5 (魔法のラーメン1)

即席麺の元祖、「チキンラーメン」は誕生して49年目。正確には昭和33年8月25日発売で、私の誕生日から約40日遅れでした(関係ないかア〜 (^;))

現在もしっかりと根付いており驚異的なロングセラーと言えます。

第二次大戦の敗戦後、食料事情の悪かった日本で庶民の味の一つに「中華そば(支那そば)」がありました。人々が屋台に列をなして並んでいる様子を見て日清食品の創業者「^{あんどうももふく}安藤百福」氏は、手軽に食べられる即席の「国民食」としての即席麺の将来を確信し、試作に取り組む事数年。試行錯誤の末やっと市場に出せるものができました。(ようさん試食をしたのはたことでしょうかね〜)

安藤氏は天ぷらを揚るところもがカリッとなる事をヒントに生麺を油で揚げ麺の形を保ったまま水分を取り去って「乾かす」という事を思いつきました。これは現在「^{しゅんかんゆねつかんそうほう}瞬間油熱乾燥法」と称し現在の即席めんでも広く採用されています。(別に中華料理で麺を揚げるのがヒントになった言う説もあるようです)

その当時うどん玉の値段が6円に対しチキンラーメンの売値は35円にするのが精一杯でした。「そんな高うて売れへんで〜」と言う前評判に反し、手軽さ、珍しさなどに後押しされ大ヒット商品となり昭和40年代へ続くインスタント食品文化の先陣を切りました。

第22話 平成19年2月8日

● ラーメン奇談 その3/5 (魔法のラーメン2)

即席麺は昭和33年に発売された当初、消費量は1年に国民1人あたり平均0.1食以下の回数だったのが平成17年には42食で総数54億食を越す驚異的な数字となりました。(実に食事25回に1回弱の割合で即席ラーメンが食卓にあがるという計算になります!)

安藤氏は自ら「瞬間油熱乾燥法」の特許を開放し、即席麺の普及に努めました。自分の特許にこだわらず業界の発展を願う心の広さを感じます。悲しいかな、私にはまだまだそんな心の余裕はありませんが… (^o^;

ちなみに全世界では年 850 億食もの需要（平成 17 年）があるそうです。一昨年はスペースシャトルの食料として採用され、宇宙まで飛んでいきました。一人の発明が食文化を新たに発展させたのです。（「スペースラム」と称していたと思います）

チキンラーメンが出た事により、それまで「支那そば」「中華そば」という呼び名も「ラーメン」が主流になったとされます。

これほどまでに普及している即席麺ですが、意外にもチキンラーメンは、約 30 年ほど前まで関東には売っておらず、当時、関東出身の友人が珍しがっていたのが印象にあります。

私の幼い頃、チキンラーメンの宣伝文句として「魔法のラーメン」と言うのが使われていたと記憶していますが、まさに後世の食文化を作る「魔法」になる事を夢みて作られた文句ではないかと感じてしまいます。

余談ですが、台湾出身の安藤氏は戦後の混乱期に脱税などの容疑で、当時警官であった私の親戚に逮捕された事もあるそうです。その当時の混乱期に頭角を現し、逮捕歴があっても昭和 30 年代の岸信介元首相（安倍首相のおじいさんで、思想犯として逮捕された）に代表されるように後々活躍された方々がたくさんおられました。戦後日本の創世期のエネルギーがみなぎっている時期に重なります。

第 2 3 話 平成 19 年 2 月 13 日

● ラーメン奇談 その 4 / 5

チキンラーメンと並んでロングセラーの即席麺が九州に本社のある「マルタイの棒ラーメン」です。マルタイは元々博多のラーメン屋さんで、あまり流行っておらず、ある時その店に来たお客が「まずかア〜！」と叫び、店の主人に「オレがもっとうまいラーメン作っちゃるけん調理場を貸しんしゃい！」と言ったそうです。店主が調理場を貸すとほんとうに美味しいラーメンを作り、それに感動した店の主人はぜひ自分を弟子にして欲しいとその人にお願いし、数ヶ月間かけて作り方を伝授してもらいました。そのおかげで、その店はおいしいと評判になったと言います。店主はそのおいしいラーメンを家庭で手軽に味わってもらおうと考え「マルタイの棒ラーメン」を作ったというのです。チキンラーメン発売の翌年、昭和 34 年の事です。製造方法こそ違え、ほぼ同時に即席麺が世に出てきたのは時代の流れだったのでしょうか？

ちなみに「マルタイ」は当初「泰明堂」という製麺所を営んでおり、その屋号の表示が丸の輪の中に「泰」の字であった事から通称「マル泰」と呼ばれ、それから生まれた社名のようです。

丸一はちなみに「全社一丸、人（一）の和（輪）」なのです。

第 2 4 話 平成 19 年 2 月 13 日

● ラーメン奇談 その 5 / 5

九州の博多（長浜）ラーメンは博多の長浜の卸売り市場で手っ取り早く食事を済ませられるようにと改良されたのですが、その特徴として麺が細く、コストの安い豚のガラでスープを作っている事です。（いわゆる豚骨スープです）

今で言う、「うまい、早い、安い」の元祖のようなものですね。

市場の朝は忙しく時間と争って仕事をしている仲買人達の為に手早く湯がけてすぐに食べられるように当時のラーメン屋さんがなんとか工夫をしたのが始まりと聞きます。なかにはせっかちな人もいて、ほとんど湯がけていない「針金」「バリ固」なんていう固い麺で注文をする人もおられると聞きます。

一般にラーメンの麺は先ほどの細麺を始め、太麺、ちぢれ麺など色々な種類がありますが、スープの性格や地域性に合わせてラーメン店主が見立てているようです。

中国の麺で、大根のような形に固めた練り小麦粉を大きな刀で削ぎ、笹の葉のような形の麺を作る文字通り「刀削麺」と言うものもあり、麺文化の興味深い一面を見せてくれます。外国ではインスタントラーメンをスープで食べずに粉スープをそのまま湯がいた麺にふりかけて食べる、などという思いも寄らない食べ方も見た事があります。

小麦粉など炭水化物を含んだ穀物を主原料とし、そうめんや中華の麺は引き伸ばす、スパゲティは押し出し、うどん、ソバは包丁で切る…など、さまざまな作り方がありますが麺の文化は中国を発祥とし、世界各地に独自の麺文化をはぐくんでいますね。

※ラーメン奇談と共に、安藤百福氏の冥福をお祈りします。

第25話 平成19年2月20日

● 越後屋商法

「越前屋 お主もなかなかのワルよのお～」

テレビ時代劇ではお馴染みの私腹を肥やす悪代官の台詞ですが 相棒の悪徳商人は越後屋では語呂が合わないのか それとも三越に遠慮してか 何故か 越前屋ですね。

越後屋は松坂出身の「三井高利」が延宝元年（1673年）に日本橋に開店した呉服屋ですがこの「高利」という創業者は「高い金利」を想像させるその名には似合わぬ画期的な商法で豪商としての基礎を築きました。従来は訪問販売で盆暮れ支払いの掛売りが原則でしたが店前売り現金掛け値なし切り売りも可、急ぎ客にはその場で仕立てという当時は同業者から反感を買いました。今では全く当たり前の商法で大当たりしたというものです。その後明治期になって呉服部門は三井と越後屋の頭文字を取って三越へ、また両替商部門は大手銀行へと それぞれ発展を遂げる事になりました。今で言う財閥のルーツの一つです。

またそれらは老舗百貨店のルーツでもある訳ですが、4年ほど前のセゾングループのそごう（十合）買収。数日前の、大丸と松坂屋の統合発表など、金融界のみならず、流通業界でも老舗の看板だけでは通用しなくなっている経済の流れと消費動向の大きな変化を象徴するものと感じます。

それらに対しては、今までは考えられなかったような事が起こってゆくのでしょうか。

まさに必要に応じ、大胆な発想の転換と不要な過去の見極めと切り捨てる英断が求められる時代が当たり前になったのだと感じます。

第26話 平成19年2月27日

● 商品名、社名よもやま話

「初恋の味」で広く愛されている「カルピス」は、身近で昔からある飲み物ですが、その名の由来は「カルシウム」+「サルピス」=「醍醐」のサンスクリット語（=インド語の語源）でできた日本の造語なのです。

「醍醐(=サルピス)」とは、牛や羊の乳を発酵させたチーズのようなもので古代日本では珍重された貴重な食べ物でした。というわけで、栄養のあるおいしい飲み物であるという考案者の思いが込められた商品名なのです。

ちなみに「醍醐」という食べ物から「非常においしい、おもしろい」と言う意味の「醍醐味」という言葉が生まれました。

カルピスは海外でも売られておりますが英語圏での商品名はなぜか「カルピコ」。考案者の思い入れをよそに、どうして変える必要があったのでしょうか？

「カルピス」を英語で発音すると聞きようによっては「カウピス」と聞こえるのです。「カウ」は日本語で「牛」。

「ピス」は「オシッコ」になってしまい「牛のションベン」に聞こえてしまうのです。「初恋の味」が「牛のおしっこの味」ではシャレになりまへん～

(> o <)

というわけで、「カルピコ (CALPICO)」に変えざるを得なかったのです～

さて、昔からある製菓会社は、当時の日本の食糧事情の貧しさから、栄養素の名を使った社名や商品名が多かったのですが、代表的な社名が「グリコ」。体のエネルギーの元となる栄養素「グリコーゲン」に由来する社名であるのは有名な話ですね。「一粒300m」はみんなに親しまれています。

というわけで「カルシウム」+「ビタミン」で「カルビー」

明治製菓の「カルミン」は「カルシウム」+「ミント」などなど・・・

私の知人で、もうお菓子は作っておられません「カルシウムの素」という意味の「カル素」と言う社名の会社もあります。それらの社名や商品名が現代でもそのまま使われ、親しまれているのは興味深いことです。最近では横文字の商品名が多いのですが古くからある身近な商品名の由来を想像するのも楽しいかもしれませんね。

また、日本の会社が輸出する際に商品名を変えて出すことがよくあるのですが、松下電器産業のブランド「ナショナル」は米国展開する際、すでに「National」と言う計算機の会社が米国にあり、その商標がつかえませんでした。そこで「Panasonic」というブランドで輸出したわけです。現在日本では、パナソニックを主流にしつつあり、その商標は高級、高性能のイメージで日本に「逆輸入」されています。

乗用車を始めとし、海外での日本製品が違う名で出ているのも良く見受けられる事ですね。

第27話 平成19年3月6日

●日本国の優柔不断は置いてきぼりを生んでしまう

1990年代、バブル経済崩壊後の日本の経済は、試行錯誤を経て実験的な銀行潰しを経て公的資金導入を決定。苦しんだ挙句なかなか低迷状態からの本格回復には至っていないのが現状と言える。乱暴な言い方が日本国内のみで勝手にバブルとなり、自ら崩壊したものである。幸いな事に世界各国に大きな影響を及ぼすことなく勝手に沈没したと言って言いだろう。

片や1997年の韓国経済の崩壊。財閥企業をめぐる前時代的な官-民-銀行の不合理・非合理的な経済構造でこれまた国内の問題によるものであった。この時韓国は外貨の調達に行き詰まりIMF（国際通貨基金）に200億ドルの支援を要請したのだった。これは国家の破産を宣言する屈辱的な判断であり、国の経済の舵取りが自国の判断では進められない事を意味するのである。

韓国は経済構造の転換を図るべく一敗地にまみれ、プライドをかなぐり捨てて再出発の道を選んだのである。この選択は、過去のしがらみを無くし、中途半端な部分を残さず変革するという意味で韓国経済が将来大きく飛躍する可能性を秘めまる。では日本はどうだろう？バブル破綻処理では中途半端な状態がダラダラ続き、国内で破綻の処理をしているから国と金融機関はナアナアの状態。例えば手形帳や小切手帳も600円だったのが2000円にするという負担を取引企業に押し付けると言った姑息な手段までやらかしているのである。当時の大蔵省はよっぽど外部の手が入るのが嫌だったようだ。一流と言われた日本経済（私は思っていないが）のプライドがあったのだろうか？日本経済は破綻宣言をせず、ダラダラ何となく回復の道を選んできたのだ。その裏には「バブルは再び訪れて経済は回復する」と言った誤った確信と大誤算が有ったと聞く。バブル期に経済の中枢に関わった方々はよっぽどバブルで美味しい目をされたようで最後まで目が

覚めなかったと思われても仕方ない体たらくと言えよう。

と言うわけで、日本と近隣諸外国とは差が開き置いてきぼりを食らいそうやねエ〜

第28話 平成19年3月12日

● 生きている地球1

地球は45億年ほど前にできたと言われる説が有力ですが、地球は、色々な隕石同士がぶつかり合い、大きくなるにつれ更に引力が増し、多くの隕石を取り込む事により現在の大きさになったと言う説が主流です。

隕石同士の衝突により、その衝突エネルギーは熱エネルギーに変わり、隕石の塊はどろどろに溶けた状態になりました。というわけで、原始の地球は溶岩で出来た巨大な火の玉だったと言われています。

地球の中心部には重い金属が沈み、「核」を形成しています。(方向磁石が使えるのはそのお陰です)

隕石に含まれた水分が蒸発し雨となり“雨→地表熱で水蒸気→雨”という循環を経て次第に表面が冷えて来て固まり陸と海が形成されたのです。

周知のように、いまだ地球の内部は溶けた溶岩でどろどろで、陸や海底はいわば地球の表面は薄い皮のようなものです。(水で満たしたバレーボールやバスケットボールの球のような感じでしょうか?)

お風呂を沸かした時などに、風呂桶に張った湯の上部は熱く、底は冷たい水のままとする経験をした方は多いでしょう。熱い湯は軽いので上に、冷たい水は重いので底へと行くのです。同じように地球の内部の溶岩も地表付近で冷やされ、冷えた溶岩は地球の内部へと沈んでゆく「対流」という現象が起こっています。

(マントル対流と言い、1年に数センチの移動とされます)

冷えた溶岩が地球の中心に下がるに伴って地表(岩盤)が引っ張られたり、それに伴う岩盤の歪などが原因で、歪を解消しようとエネルギーを放出する時に地震が発生します。

陸をも動かすエネルギーはすごいものがありますね。

阪神淡路大震災の早朝、私は車で会社へ行く途中でしたが、余りの横揺れで車から降りたところ、地面がまるで船に乗っているかのように揺れて波打っているのを体感した事と、その光景を思い出します。

地球が出来て45億年経った現在でも内部に溜まった熱でいまだに溶けた溶岩が内部にあるというのは、いかにその当時にたくわえられたエネルギーがすさまじかったかを容易に想像できます。

それらが火山の噴火、地震、陸の移動などさまざまな地殻変動をもたらしているのです。

地球の内部は生きており、人類を含む生物の活動にさまざまな恩恵と悪影響を与えてくれるのです。

第29話 平成19年3月20日

● 生きている地球2

時によって幻想的な演出をしてくれる月はどこから来たのでしょうか?説は2つあって、1つは宇宙のかなたから飛んできて地球の引力に取り込まれて回るようになった説。もう1つドロドロに溶けた状態の地球に巨大な隕石が衝突し、跳ね上げられた溶岩が宇宙で冷え固まってできた説があります。溶岩の成分と月の成分がよく似ており、金属成分が少ない事から、現在、後者の説が有力とされます。これは、隕石の衝突により地球の中心に沈んだ重い金属でできた「核」以外の成分が宇宙に飛び出した為、月には思った程、金属資源を含んでいないと言うことが根拠になっています。

月は潮の満ち干き、動物、植物の生態に大きく関わっており自然の営みに欠かせない重要な働きをしています。また、月が無ければ地球の自転軸も定まらずふらふらと回り、気候も無茶苦茶になるそうです。

前回、地球の内部の溶岩が対流で動いていると書きましたが、海でも同様に対流が生じてます。

日本人に身近な黒潮は太平洋の日本沿岸を北上し北海道沖に抜ける大きな海水の流れです。では、北へ行った海水はどうなるのでしょうか？暖かい潮の流れである黒潮は北極付近で冷やされ海底を這うように赤道付近まで潮流となって戻ってきます。地球の自転と月の引力により生じる力と相まってさながらコンベアに乗ったように海水が地球をめぐるのです。それらが自然の営みを作り、自然の恵みと災害をもたらしてくれるのです。地球の気候は、数千年～万年単位で氷河期になったり、高温多湿になったりと大きく振れており、生態系（生き物全般）にも影響を及ぼしてきました。現在の地球の温暖化は人類が地球の自浄能力を越えたものを排出し温暖化が進んでいます。それらは、海流の循環の変化をもたらし、それが悪影響を与え、最悪の場合、循環システムがくずれ、海水が滞留し（動かなくなり）、自然の営みは壊滅的な状況に陥ると指摘されております。自然は微妙なバランスの上に成り立ち、穏やかな気候でさまざまな恩恵を我々に与えてきてくれましたが、それらに甘える事数十年の間にそれらを崩してしまう程大きく傷つけてしまいました。これからは、それらのツケが大きくなるのしかかってくるのを覚悟しないとイケない事態になっています。経済性優先のツケ、物質の豊かさを追及したツケ、快適さを求めたツケ、飽食のツケなどさまざまなツケが我々に津波の如く押し寄せるのです。自然に勝てるものはありません。せめて我々が出来る事は何かを常に考えて行くことが今、出来る事のささやかなことでしょう。生きている地球の不健康な状態を改善するのはそう簡単には行きません。わかっていて怠ってきたツケですから。体の病気も早い目の治療が、良いように、生きている地球も早めの対策が有効のはずでした。

第30話 平成19年3月27日

● 生きている地球3

実際に、自然界のバランスが崩れると、滅びるもの、栄えるものが現れ、また封印されていたものが復活または形を変えて出現するなどの現象が出てくることでしょう。最近の身近な例が「鳥インフルエンザ」なのかも知れません。また、生物に異常をもたらす環境ホルモンの蔓延など、地球上のあるバランスが1つ崩れる事により、それらが絡み合っただけでさまざまな影響が出て来るのです。

全くの私見ですが、南極の氷が解ける事により、氷の重みで沈んでいた南極大陸が少し浮き上がるだけでも薄い地球の地表（岩盤）はゆるんで歪が発生で、予想もしない（警戒もしない）地域で地震が起こるのだと考えてしまいます。また、氷が溶け出す事により、封じ込められていたシベリアのメタンガスが噴出し、温暖化をさらに促進するとの予測もあります。

自然の破壊は、我々の生活の破壊にもつながる・・・私は「一時が万事」と言う言葉を大切にしているのですが、一つの事柄が良きも悪きも、色々な事の引き金となり大きな事へとつながるのだと考えます。

環境ISOを取得している会社でも、表向きは体裁は良いけど、実際は公害垂れ流しの国で製品を作っていたり、協力会社、関連会社にISOの不適合部分やお金がかかる事を押し付けるエセエコロジストも見受けられます。表面だけでなく、私たち一人一人が少しでも心がけ、資源の無駄使いを無くし、リサイクルに心がけ、ゴミの飛散を無くし、自然への敬意と、尊さと、怖さを知るべきでしょう。

遅きに失する事は何もないです。我々の世代に正常になる事は難しいですが、それぞれの努力が次世代に残して行けるものは何かを考えるべきでしょう。また、現在、起こりうる事に対し、何が準備出来るのか？どのように対処すれば良いのかを考えておく事が大切だと思います。

人の体も同じ自然の中の一員です。対処も同じでしょう。

おまけ ～追記（環境と自転車）～

自転車は環境にやさしい乗り物とされます。日本では年間1100万台程度が販売され、その内、実働が700～800万台とされます。(業界の統計があいまいなのでこの数字です) と言う事は、300～400万台がどこかに行ってしまうのです。それらは、海外に中古自転車として再活用されるものもありますが、放置されたり、川などに^{はいき}廃棄されたりしております。また、その余分な台数を作るエネルギー、運ぶエネルギー、きちんとした廃棄に要するエネルギー、放置されたものを回収するエネルギー、再び溶かすなどして再資源化するエネルギーの膨大さを考えると決して環境にやさしいとは言えないと思います。ただただ安く売るのはもう古いのです。

命を預けている乗り物に必要以上の安売りは危険だし、本来、部品の互換性の高い自転車が、部品一つ^{こわ}壊れただけで新車に買い替えてさせてしまうような意識を消費者に植え付けてしまった業界に身を置くことが、恥かしいとすら感じる事があります。

環境にやさしく安全なはずが、その逆を行っている、安全教育、回収のシクミも作れないのは、自転車業界として団体があるにもかかわらずなにも出来ていないのは非常に恥ずかしい事なのです。

第31話 平成19年4月3日

● 桜よもやま話

桜前線が全国に広がりつつあり、いよいよ春たけなわの時期となりましたねエーという訳で、今回は「桜」について触れてみましょう。

桜の花見の習慣は、平安時代からのもので当時の貴族階級がそれに興じていたとの記録があります。それが、大衆にも広がったのは、徳川時代、八代将軍、吉宗が広く奨励してからとされます。

ところで桜は何科の植物なのでしょう？意外にもバラ科なのです。トゲはありませんけどね。

学術的な分類はさて置いて「桜」の語源と漢字について見てみましょう。

桜は「咲くものたち」という意味の「咲く・ら(=等)」から来た説があります。

「彼・ら」の「ら」と同じ使い方ですね。その説を裏付けると私が考えるのが「桜」と言う漢字の由来です。

「桜」は現代の表記文字で、元々は「櫻」であるのはご存知だと思います。「木」偏の横の「嬰」は「貝が2つ+女」で、女性の首に巻く貝の首飾り→貝がとりまいているという風な意味だそうです。もちろん貝は、美しい物の象徴でしょう。

「櫻」は「木+嬰」で、美しい花が木をとりまいて咲く意味があるそうです。

すなわち、「木をとりまいて美しく咲くものたち」という意味なのでしょうね。

また、もう一つの説として、古い文書である古事記に、桜の霊である「^{このはなさくやひめ}木之花咲耶姫」が最初の桜のタネを富士山から蒔き、「さくやひめ」の名前から「さくら」になったというものがあります。ちなみに「此花」は「木之花」が由来とか・・・

さて、身近な桜の代名詞に「^{そめいよしの}染井吉野」がありますが、それは江戸時代に江戸駒込の染井村から植栽が始められたといえます。初めは見事な桜の代名詞として「吉野桜」と呼ばれていましたが、誕生地の「染井」の名を加えて「染井吉野」になったとされます。

日本人が大好きな桜ですが、そもそもなぜ人気があるのでしょうか？ それらは、

「大木になる」→ 木自体が目立つ

「花が木いっぱいに一斉に咲く」→ 鮮やか

「花は葉が出る前に咲く」→ 花が目立つ

「すぐ散る(開花時期が短い)」→ 日本人好み？

「節目の季節に咲く」 → 卒業、入学、入社など、いろいろな節目^{ふしめ}の重なる時期にいっぱい咲くので印象に残りやすい
「うすピンク色（染井吉野）」 → 見ているとほのぼのとした気分になれる
「咲く前から待ち構える雰囲気がある」 → ”いよいよ桜シーズン” といううたい文句でいろいろPRされるので開花日が待ち遠しくなる

という事が言われています。これだけの条件を満たす花は、他にはありませんね。過去の戦争においては当時の軍部が「ぱーっと咲いて、さっと散る」事を潔い軍人の象徴として利用した悲しい経歴もあるのですが日本人は、桜を特別な花として見ていますね。

ちなみに、丸一金属工業の先代社長が約30年前に杭全神社の公園に寄付した桜は、毎年見事に花を咲かせ、地元の方々に喜んで頂いています。

第32話 平成19年4月10日

● ウスターソースはなぜウスター？薄いからとちやうのん？

どこの家庭でもある醤油とソースですが、ウスターソースは、英国のウスター市（ウスターシャー州）が発祥で、ある主婦が野菜や果実の切れ端をコショウや唐辛子、塩、酢などの調味料と一緒に壺に入れておいたところ、数ヶ月後には香りの良いソースが出来ていたのが始まりと言われます。

また、もう一つの説として、当時の英国の支配下にあったインドで総督^{そうとく}（別の説で当時の貴族説も有り）だった人が、インドで味わったソースの味が忘れられず、その作り方をウスター市の薬局に持ち込み作ってもらいました。なぜ薬局なのかはわかりまへん～（- -）

しかしながらそのソースは食せる代物でなかった為にその薬局の地下に眠る事となりました。ところが、2年ほど経って思い出したようにその容器を開けると、素晴らしい味と香りのソースに変身していたのです！それを売りに出したところ、たいそう評判がよく、非常に良く売れたそうで、地名を冠^{かん}したウスターソースは世界中に広まったと言うことです。

何れの説も、時間を経過してからおいしくなった事が共通点で、乳酸菌が発酵し熟成させた結果なのだから・・・

ウスターソースが日本に伝わったのは江戸の末期で、洋食を食べる一部の階層で重宝されたらしいのですが、一般の日本人の口には合わなかったために工夫され、洋食の広まりと共に普及したとされます。という訳で現在日本で売られているウスターソースは元々の味とは大きく異なるのだそうです。

日本に根付いたソースは独自の進化を遂げ、トンカツ、特濃、ヤキソバ、お好み焼きソースなどバラエティに富んだ進化と分化をしていますね。

昔、私はウスターソースはトンカツソースより薄いソースなので「薄ター」と言っているんやと思ってました。ああ、ハズカシ（^_^）

ちなみに、日本で最初にウスターソースを販売したのは「ヤマサ醤油」で、色が日本の醤油に似ている事から西洋風「新味醤油」の商標で売りに出したと言う事です。

第33話 平成19年4月17日

● アメリカの「日本酒」

日本酒は米を米麴で発酵させて出来る日本独自のお酒なのですが、渡米した日本人がカリフォルニア州(加州)で作っていた歴史あるお酒があります。「沼野(NUMANO)」と言う銘柄の純米酒で「沼野酒造」が作っていました。

原料となる米は、日本から種籾を持って行き、加州で定着した「カリフォルニア米(加州米)」です。この加州米は、炊き上げても見た目は、日本の米とほとんど変わらないのですが、冷めると粘り気が無くなり、ぱらぱらになるような米なのです。しかしながらその米で出来た「沼野」は程々にまったりとしておいしく、日本酒!!という味がします。海外の日本食が本来の日本食で無く失望することが多いとされますが、この「沼野」に関しては裏切るような味ではなかったのです。日本人が渡米し、その地で生涯を過ごすと言うことで、やはり日本の食文化の一つを、

かの地でも味わいたいという執念がこの日本酒を造りだしたのでしょう。

ちなみに日本酒は英語で「ライスワイン」と言いますが「酒」が英語の発音で訛った「サキ」と英語になった日本語?でも呼ばれるようです。

その沼野酒造は米国での日本酒の普及を確信した宝酒造に米国進出の足がかりとして昭和50年代に買収され「米国宝酒造」と社名は変わりましたが、いまでも「沼野」の銘柄は愛されている事と思います。

余談ですが、昔、米国の日本人社会では、現地で調達できるものを工夫して出来るだけ日本に近いものを作ったりしていたようです。もちろん、日本から持ってきた(輸入した)ものも使って色々と工夫していたのですが限界がある為、和洋折衷となってしまう独特の文化として発展してきたように感じます。今では、日米間の人の行き来、また情報を含むいろんなものが簡単に手に入ったり出来たりしますので、文化の平準化も進んでいるのかも知れませんね。米国の自転車はスポーツ車中心ですが、その日本人社会ではママチャリも活躍してまっせエ〜 p (^ ^)

第34話 平成19年4月24日

● 夏もちイ〜かづく八十八夜♪

でおなじみの「八十八夜」は立春(2月4日頃)から数えて88日目の日本固有の暦の一つで5月2日頃とされます。この日は春から夏に移る節目の日、夏への準備をする決まりの日、縁起の良い日などとされています。

また、この頃から霜も降りにくく、穏やかな気候となり、茶摘み、田んぼの籾蒔など農作業に適した時期の目安とされます。しかしながら、この時期は急に気温が下がって霜が降り、農作物などに思いがけぬ被害を与えることがあるので「油断しないように」との意味も込められている一石二鳥?の暦なのかも知れません。

天気予報が身近にあり精度も上がっている?現代ですが、この暦には自然の流れに乗って季節を迎えることが無病息災の原点と言う先人の知恵を受け継いでいるのだとする考えもあるようです。

(近年は、地球温暖化で暦の意味自体が危うい状態になりつつあります)

ところで、八十八夜=茶摘みを連想させるのは、冒頭の茶摘みの歌によるものが大きいようですが、産地により必ずしもその日ではないようです。それぞれの産地の「八十八夜のお茶」は、昔から無病息災、不老長寿など縁起物として珍重され、また、この時期のお茶は気候条件も良く極上とされます。

また、特別な茶の木で、その新芽の極々一部から摘み取られるその時期の「超」特別なお茶は、色は薄いのに、飛び切り極上!!と知人から聞いた事があります。

それにしても「八十八箇所巡礼」「米寿=八十八歳」「八卦見」「一か八(鬮)か」など、日本人は末広がりの「八」を好むようで… (^o^);

第35話 平成19年5月1日

● シルバーウイークもあった!?

「ゴールデンウイーク」と言われるこの時期ですが、そもそも何故「ゴールデン」なのでしょう？長期休暇になるから、はたまた休みが多いから「素晴らしい週やデエ」、と言うのが一般の認識ではないでしょうか？

これは映画が娯楽の中心の一つだった頃、この期間に大ヒットした大映映画（S26年、自由学級）があり、それに気を良くした時の映画会社の役員が、より多くの人々に映画をみてもらおうと、ラジオの「ゴールデンタイム」をもじって「黄金週間」としたのが始まりとされます。それをより印象深くするために「ゴールデンウイーク」と言う和製英語を作ったのだそうです。それが4月末から5月頭の大型連休と重なっていたために、いつも間にかその代名詞になってしまったと言う事です。

それに便乗？対抗？したのか、4～5月の連休に対し、11月3日の文化の日を中心とした文化行事の多いその時期を「シルバーウイーク」なる言葉が登場したのだそうですが、どうやら定着せずに忘れ去られてしまったようです。

「シルバーウイーク」という呼び名がかつて存在したのだと言う事を知り、国鉄が分割民営化(1987年)された際、JR東日本の愛称を「E電」と呼びましょう～！と言ってたのを思い出しました。今では、誰も使わなくなりましたが(x x)

やっぱし、JRて言いますね。でも私は、いまだに時々「JR」を「国鉄」と言ってしまう事がありますわ～(ToT)

人の感性に訴える言葉や単語を見つけ、定着させるのは、難しい事です。

第36話 平成19年5月8日

● お札から消えた聖徳太子(その1/2)

日本最古の政治家とされる聖徳太子ですが、古書にも良く登場する割に謎が多い人物とされます。馬屋(うまや)の前で生まれたので「厩戸の王子」という別称があるのですが、その誕生の逸話はキリストのそれに似ているためキリストの話が中国から伝わって出来た話ではないか？という説も有り、本当に実在したのかは不明なのです。政理事をやりやすくする為に後世にでっち上げた偶像なのかも知れませんね。

さて、聖徳太子が建てたとされる「四天王寺」の^{こんりゅう}建立のきっかけは、当時、蘇我氏と^{ものべ}物部氏の争い事があり、その戦において蘇我氏側の聖徳太子は「四天王」に祈願し、勝利を得たことに感謝して「四天王」を^{まつ}祀った四天王寺を建てたと言うものだそうです。

ちなみに「四天王」とは

^{じこくてん}持国天＝東方を守る

^{こうもくてん}広目天＝西方を守る

^{ぞうちょうてん}増長天＝南方を守る

^{たもんてん}多聞天＝北方を守る (毘沙門天とも言う)

の四つの方角を守るそれぞれの王ということだそうです。

余談ですが、「寺」という漢字に「てら」と読みがなを付けたのは聖徳太子とされます。

それは、てら～元来^{テラ}テラ語で地球・大地の意味の「テラ(terra)」という発音が同じである事が根拠なのだそうですが、もしそうならば大陸経由で入ってきたキリスト文化の流れなのでしょう？ 私の解釈では寺とは^{まんだら}曼荼羅(仏教の悟り)の地を再現した、俗な言葉で言えば「仏様の出張所」のようなものとみなせば

「仏教の大地」を再現した場を「てら」とした、とも考えられなくも無いでしょう（ちょっと強引？）神社の鳥居もキリスト由来と聞いた事があります。また、聖徳太子の遺品の中に「地球儀」があることで「地球→てら」を思いついたのだと裏付けする向きもあるようですが、その真偽の程は「？」です（^o^？

第37話 平成19年5月15日

● お札から消えた聖徳太子(その2/2)

ところで、過去には、1万円札の代名詞でもあり、また数種類のお札の顔として度々登場した「聖徳太子像」は今では使われなくなってしまいました。

いったい、どうしてなのでしょう？ 聖徳太子の一万円札が無くなった時期と前後して、四天王寺に飾ってあった同じ図柄の聖徳太子像も2歳の聖徳太子像に取替えられてしまいました。（2歳にしては大き過ぎる像～）

紀元3世紀頃、朝鮮半島の三国で百済、高句麗、新羅と言う国々がありました。朝鮮半島の三国時代だった頃です。実は私たちが馴染んで来た聖徳太子の像はその国の一つ、新羅の皇子の像だったと言うのです。要するに多くの日本人が長い間思い違い（人違い？）をしていたと言うことですやん。（新羅の皇子の名前は忘れてしまいましたア～ /(>. <) ☆

それを察していた日本政府は、お札にその聖徳太子像を使用しなくなったとされます。と言うわけで、四天王寺の像も取替えられてしまったのですり。

当時の技法である絵は描けなかったとされるのがその裏付けの一つで、韓国の有識者の間では、あの像が新羅の皇子像であるのは周知の事実なのだそうです。

元来、アジア民族は大陸を中心に広がった同じ系統の民族なので、いまさら人違いと言われてもピンと来ませんね。

第38話 平成19年5月22日

● 中国の開放路線に乗せられて（独断と偏見？の私見）(その2/3)

中国の経済改革開放路線が始まったのは1978年。それ以降、特にここ数十年は外資の投資とそれによる生産活動はめざましいものがあります。それらは華僑（中国人系商人、経済人）がしたたかに世界戦略を実践した賜物なのです。

タイ（王国）の経済はその華僑が支配しているのですが、私は20年ほど前にタイに安く生産する為に別の生産拠点が出来ないか模索した時期がありました。何故止めたのか？それは、国内の製造業が海外に行く事により日本が空洞化する事。また、空洞化する事により日本の購買力が低下し更に安い物を要求される悪循環に陥るのが目に見えたからです。中途半端な零細企業が海外で事業を展開するとしたら、その事業主はその地で一生を終える覚悟でないとしても出来る事ではないと思ったからです。（私が臆病なだけなのかも（^;）

その地で一生を終える事は即ち、日本の工場を閉めなければならないと言う事につながるのです。

よって私の最終判断は、現状では「海外での生産はしない、できない」「日本から製造業を絶やしてはならない」でした。

製造業がこぞって中国に生産拠点を移したり生産委託し始めた頃、私は事あるごとに、ただただ安い製造コストを求めての中国での生産行為は「天にツバするものだ」と言う事を良く言っていたものです。

それは以下の理由からでた言葉なのです。

- ① 中国の安い製品が入ってくると製造に携わる人の労働の場が奪われ、国力と国民の質が低下するだろう。
- ② 公害防止設備もなく、汚染物質を垂れ流しまたは、放出すればいずれ日本海が汚染される。また汚染された空気が偏西風に乗り、日本に達する事になるだろう。(実際、毎年黄砂が飛んで来るのを見て予測される事)
- ③ 朝礼暮改の国であり、技術など必要なものが手に入ればその企業はポイ捨てされる恐れがあるだろう。(技術を盗めば用無し。但し、特定の企業は大切に扱うだろう)
- ④ いずれ、中国が発展すればさまざまな弊害と傲慢が日本を始め、世界に影響を及ぼすだろう。

全世界を見渡すと、国際的な水平分業も避けて通れないですし、発展している国の購買力を見越しての進出も当然の流れなのですが、行き過ぎ、偏り過ぎは弊害を生む事になりかねません。

以上の事が頭に浮かんだのは、タイでの生産を真剣に検討した経験に基づくのです。そして、それらの懸念は想像以上に恐ろしい現実のものとなりつつあります。

第39話 平成19年5月29日

● 中国の開放路線に乗せられて(独断と偏見?の私見)(その2/3)

① 中国に製造依存する国の国力の低下について

目先安いものの輸入により、その国の労働市場が奪われ、購買力が下がり、モノが売れなくなり、更に安く作れるところを探したり、痺れをきらせて国内で踏ん張ってきた会社も中国に製造を依存する。この、負の連鎖が労働市場の異常さ(フーラー、派遣など)の原因のひとつでしょう。過去、日本政府は主にIT産業など新産業分野に労働人口を移行させれば良いと考えていたようだが、労働層の資質を考慮せずそんな芸当は無理。私は中国からの製品には期間を設定して関税を課した上で、期間を設定し日本国内の産業構造の転換を図り適性に労働市場を形成しないと国家の社会保障制度の根幹が崩壊するし将来の展望が見えなくなると考えていたものです。また、政府は介護制度による介護市場の形成も手がけたが、その仕事は付加価値を生むものでなく国内でお金が回るだけで国全体が持つ資産は目減りするだけだったのです。実際、介護の現状は目を覆うばかりです。

付加価値を生むはずの製造業の縮小は、資源のない日本では国力の低下なのです。現実に日本では、そうなっています。大企業は利益を出しているものの、その就業人口は実に0.2%に過ぎないため報道による景況が実感として伝わらないのです。そして、他の先進国と言われる国でも同じような現象が起こっています。

② 汚染、公害、環境について

中国国内のごく一部の上層部でしか公害を問題視しておらず、経営者、労働者のモラルや意識も極めて低く、現在汚染範囲が広く種類が多過ぎてどこから対処してよいか手を付けられない状態である。この状況は情報管理のもとに隠されており中々表には出てこない。今や、抑え切れなくなって溢れ出たものが光化学スモッグ、クラゲの異常発生(廃温水などによる)などまさに日本に被害が出始めているのはご存知でしょう。日本で環境に配慮していると豪語している企業でも、この国で製造していれば環境に配慮しているとは言い難いのです。(一部、環境保全に対応している日系の工場もあります)日本で公害問題が収まるのに時間を要したのは周知の通り。こんな広大な国家の公害を抑えるのは気が遠くなる事業です。昔から私は「将来、日本海のカニを食べると公害病になるでえ〜」と言い続けています。

それに、安価にものが作れるのは、工賃が安い事もそうですが、高価な公害防止設備が無いのも大きな要因の一つです。安価な物の氾濫で使い捨て感覚の物が増加し、不必要な資源の浪費と廃棄が増加したのです。その浪費は便利さを生みましたが、生産、廃棄、再生のそれぞれの段階で余分なエネルギーを消費し、余分な炭酸ガスや熱の放出となる訳です。

また、他国の不要製品の解体を請け負い、危険物であっても何も知らされていない従業員が解体に従事し、その廃材は不適切に廃棄し公害の元凶となる。当局は摘発の振りをし、業者は廃材を散らかしたまま他所でまた同じ事の繰り返しをする。業界にもよるでしょうが最悪な状況です。

近い将来、中国々内でも公害病、中毒などで健康被害が大問題になるのは必至でしょう。

(- ;

③ 技術の取り込みについて

現在、基本的な製造技術が手に入った段階となり、今となつては不必要で中途半端と判断される企業を中心に法令を使うなどして追い出しにかかっています。また、投資してくる企業を選別し、中国が欲する技術水準でない会社は投資を認めません。即ち、今よりもっと高い技術を盗む算段をしていると思われても仕方が無いのです。また、技術や設備、資源を独占する事により、他国の国力を弱め、世界の工場として君臨でき、将来的には市場価格を意のままに操れる力を持つ懸念があります。実際、豊富な資金を背景に、原料の価格決定権を握りかけています。片や、現在、中国独自の画期的な技術は無いようです。また、世界からの公害への批判をかわす手段の一つとして、汚染物質処理設備、無農薬などのお土産付きで中国進出も大歓迎のようです。当然、環境技術も大事な戦略ですし何もせんよりは少しでもマシですが、これとて自国の努力、技術ではありません。

第40話 平成19年6月5日

● 中国の開放路線に乗せられて（独断と偏見？の私見）（その3 / 3）

④ 世界などへの影響について

昔はどの様に現実になるのかが明確に分かりませんでした。現在以下の事が起こっています。長期的な戦略のもと中国は着実に成長を遂げているように思えるのですが、戦略で立てた予想以上に世界のお金流れ込み、それによる負の面が強く出てきた事を強く感じます。

- ・ 原料不足、原料高（燃料の高騰で、バイオエタノールの需要が高まり、原料のトウモロコシも高騰!?)
- ・ 材料、原料の囲い込み（自国に材料、原料があれば、または回ってれば他国はどうでもよい）
- ・ 中国の生活水準の向上とともに新しい食習慣が取り込まれ、特定の食材が不足になりつつある
- ・ 拝金主義（「お金が全て」と言う考え）がはびこり、その為には何でもする→モラルを逸脱した経済活動
- ・ 工場用地確保による必要以上の農地の破壊で食材不足、自然の破壊で環境の悪化→世界的食料難へ
- ・ 公害による地球規模の環境汚染とその放置→世界的な異常気象、農作物被害から食料難へ
- ・ 通貨の元の為替レートを管理し安い生産コストを維持し世界経済に打撃を与えた→世界経済の疲弊
- ・ 実質は資本主義だが、社会主義という看板を掲げている為、資本主義経済と一線を画す事ができ、他国からの為替レートについての干渉を最小限に抑えられる事を武器とし活用している。
- ・ 経済の発展に伴う軍事力を含む異常な国家権力の増長
- ・ 国家権力の強大化に伴う、情報管理強化と、反体制・不都合と思われる自国民への更なる迫害
- ・ 国内の超極端な貧富の差の顕著化（元々貧富の差の激しい国だったが更に極端になった）
- ・ 国力増大により他国へのさまざまなアメとムチの使い分けがあからさまで目にあまる状況

などなど・・・中国4千年の重厚な歴史、日本文化の源流をもたらした国はどこへ行く？

世界中がこぞって中国詣でをした結果が今日の陥っている困った状況なのです。

身近に接する情報でも、ペットを死なせてしまうペットフードの輸出、飲んだら死んでしまう処方薬の原料の輸出、煮込んだら有毒物質が出てくる土鍋などなど枚挙に暇がありません（とりあげたらきりが無い事）。それらの原因や責任の所在を探っても分からない。儲かれば何をしても良いし、不都合な事が明るみに出たときにはうやむやにしてしまうと言う国家ぐるみでの暗黒・魔性の側面が今の中国には感じられます。そう言う意味でもかなりの悪意と、根深さを感じざるを得ません。現在の日本でも同様な面がありますが・・・

中国の改革開放路線という言葉巧みな旗に世界中が踊らされてしまった結果、なんと恐ろしい現状かと思えます。一番の被害者は中国の中でも必至に、真面目に生きようとしているその国民かもしれませんけれども、とぼっちりを受ける各国も迷惑な話です。

このように現在の色々な無理、無茶が祟って近い将来、現在の国家体制が何らかの形で大きく変わらざるを得ない国に思えてなりません。（反乱などによる指導体制の崩壊、国の分割、経済崩壊など）その時にまた、新たな懸念が・・・

いまや大国となった自覚として自国の利益のみに捉われず、全世界（地球）的に考えた行動を取る事が、今や大国となった国が還元すべき事でしょう。目先のポーズは何の解決にもなりません。

ところで、現在日本に残る製造業は、付加価値を求め日々努力している会社が多いのですが、その根幹を支える製造全体のシクミのほころびが見えています。技術、設備もさることながら、人的な資質も低下しました。これからが日本及び、日本の製造業全体の正念場なのでしょう。残っている企業は独自に頑張りましょう！！また、政府、行政の開発補助金などは使える時に利用せねば。

おまけ ～北京駐在の福島香織氏のレポートより～

下水油ラーメン…下層直撃、中国「食の危険」

中国の偽（にせ）食品、汚染食品問題。経済のグローバル化に伴い、中国の「食の危険」が海外に飛び火する懸念が高まっている。国内では、貧富の格差拡大により下層社会の人々にしわ寄せがゆく構造が顕著になってきた。中国当局は食の問題の啓発と改善に本腰を入れ始めたが、効果はいっこうに上がっていない。

■「下水溝油」

5月半ば、モンゴルのウランバートルで中国製即席ラーメンを食べた学生2人が中毒死したと地元紙で報じられた。因果関係は証明されていないが、そのラーメンが、俗に「下水溝油」と呼ばれる質の悪い油で作られた可能性が指摘された。

中国では、食品工場などの油を含んだ下水を再加工して作った「下水溝油」を利用した偽即席ラーメンが本物そっくりのパッケージで格安で市場に出回り、ときどき農村で食中毒事件が報道されてきた。今回の事件は問題が周辺途上国に飛び火する危険性を示したと受け止められている。

■「有坑乳」

「中国では雑菌処理のために牛乳タンクに抗生物質をぶちこむケースもある」。中国で酪農指導を行う酪農家は、こう話した。

病気治療のため抗生物質を乳牛に投与したあとに絞った牛乳には抗生物質が残留するが、そのまま売られることも日常的だという。有機農法による穀物で飼育された乳牛もいるが、こうした安全な牛乳と抗生物質が残留している「有坑乳」との値段の差は実に6～7倍。中小の牛乳メーカーでは「有坑乳」が横行しているのが現実だ。

■ 「民工米」

同じ問題はコメにもある。発がん性のあるカビがはえた古米は市場流通を禁止されているが、出稼ぎ農民（民工）向けの工場や建設現場の食堂に安く卸され、「民工米」と呼ばれている。その一方で、今年から日本産米の輸入が解禁され、富裕層をターゲットにしたコシヒカリなど超高級米が7月初めにも高級スーパーに並ぶことになる。

最近の新華社系時事週刊誌「瞭望」の特集記事によれば、食品工場45万のうち、35万が従業員10人以下の小規模工場で、22万が食品製造に必要な衛生許可証などを備えていない零細工場という。

中国政府は最近、食の安全の啓発に力を入れ、都市部の富裕層の間では有機農法ブームが起きている。しかし、食品製造の現場を支える労働者や農民の啓蒙（けいもう）や、貧困層の食の安全はまったく省みられていないのが現状だ。

第41話 平成19年6月13日

● そんな事とは「つゆ」知らず・・・

本格的な夏を間近に控え、梅雨の時期となりますね。

梅雨は、大陸からの冷たい高気圧に対し、太平洋からの湿った暖かい高気圧の勢力が強くなり、そのせめぎ合いの谷間に梅雨前線が出来て雨を降らせるのです。その梅雨前線は、さながら冷たい水をコップに入れておくと水滴が付く理屈と同じで、コップの冷たい水が大陸の高気圧、コップが前線、外気が太平洋の高気圧、水滴が雨雲（雨）とでも例えればわかり易いでしょうか？ 前線がもたらす雨の基本的な仕組みですね。

さて「梅雨」は「ツユ」とも「バイウ」とも言い「バイウ」はそもそも中国から伝わって来た言葉なのです。中国の大河、揚子江の流域では、梅の実の収穫時期が雨期にあたり、そのために「梅雨」と呼ぶようになったと言う説があります。

それでは、漢字の読みから外れた「ツユ」という言葉はどこから来たのでしょうか？江戸時代の頃からの名称とされ、諸説色々あるも、代表的なものをご紹介します。

- ・ 木の葉に溜まる「露」説
- ・ 梅の実が熟してつぶれる時期という事で、「つぶれる」を意味する「潰ゆ（ついゆ、つゆ）」から来ている説

また、「バイウ」の説は先ほど書いた以外に以下のものがあるそうです

- ・ 「梅」のつくりになっている「毎」は「毎日」など、続けて雨が降るこの時期に“梅”雨という漢字が充てられた。
- ・ 昔中国では「カビ（黴）の雨」という字が使われ「黴雨」（バイウ）と書くのですが、カビの季節とはいえ印象が良くないので、梅の実の熟す季節と重なっている事もあり同じ発音の「梅雨」という字を充てたと言うことだそうです。

ちなみに毎年、梅雨になると今年のツユはどんな梅雨？という予想が気象庁から発表されるのですが、カラ梅雨、男性的な梅雨、暴れ梅雨などと表現されますね。今年はどうな梅雨なのでしょう？

何れにしても、洗濯物が乾きにくく、布団などの天日干しもできないじめじめした時期なのですが、一番気をつけなくてはならないのは食中毒でしょう。先ほどの説の中に「カビの雨」というのがありますが、「カビやすく、食べ物が腐りやすい」ので充分気をつける必要がありますね。そんな事とはつゆ知らず、食べて食中毒になってしまった～ではすみませんね。どんな進化？した菌が出てくるかも知れませんからね（^^；また、食べ物だけでなく、材料、部品も錆び易いので予測される事には適切な養生などの対策が普段以上に

必要な時期でもあります。

ちなみに「マイウ」は、放送業界などの隠語？で「うまい（おいしい）」の事を指すのは周知の如し。

「バイウ」とは関係ないっかア～。えらいすんまそん /(_ ;m

第42話 平成19年6月19日

●「綾町^{あやちよう}」が示唆するまつりごとのあり方 ～夜逃げの町～ (その1/2)

東国原（そのまんま東）知事の当選でにわかに関心を浴びるようになった宮崎県ですが、そこに美しい広葉樹が延々と広がっている「綾町」という小さな町があります。

1960年代、その町は林業主体の産業で成り立っていたのですが、時の町長「郷田實」という方が自然保護の下、樹林伐採を禁じたのです。そのため林業で生活していた人々は職を失い人々が離散するという「夜逃げの町」と言われたそうです。自然保護とは言え人々の生活基盤を奪ってまで信念を持ち続け「木を切るのだったら、俺を斬ってからしろ」と反対派には命を掛けて森林を守り続けたのです。そして、この町の生きる道として観光資源としての自然環境と、有機野菜のブランド化の大切さを説き、いち早くそれらを奨め（進め）ました。今の状態が続けばどうなり、将来の為には今ある資源で何が出来るのかを的確に判断されたものと思われまふ。「何を捨て、何に特化するか？」「選択と集中」は近年、多くの企業が模索している姿そのものです。町長の考えに付いて行けず、生活基盤を失った町民は去り「夜逃げの町」と揶揄された（からかわれた）のですが、それも町長は織り込み済みだったでしょう。また必然的に町の税収も激減し財政も痛みを伴う事も覚悟した筈です。

今やこの小さな町に年間100万人もの観光客が訪れるようになっており、有機栽培の先駆者として、海外からの視察者も大勢来られているとの事です。私が知る限り日本の小さな町でこのような所は見受けられません。

いまでこそ有機栽培農法は誰もが耳にしますが、その時代にいち早く採り入れたのはすごいことです。もちろん当時に有機栽培のお手本は無く最初からその農法がうまくいったものではありません。町長、町民が一体となって永年試行錯誤したのは言うまでもありません。産業の転換を図るのは並大抵ではないでしょうが町長の信念の下、町民と町長が相互信頼し成しえたのは凄い事です。

郷田氏は生前、以下の事を述べられています

「町長になって23年、町民と共にあの山を残したのが私の仕事。生命をかけて残しました」

「“本物指向”とは、いかに儲けるかの物づくりだけではなく、愛する子供や夫に家族にと、心をこめて織ったり、編んだり、縫ったり、つくったりの愛情のこもった物作りである」

この言葉には、人作り、もの作り、まつりごとの原点を感じます。

郷田町長の改革には痛みが伴い、その当事の町民の辛さは言葉では言い尽くせないものだったでしょう。しかし、改革後のあるべき姿をしっかりと示し、それを皆が納得し、信じ、協力して実現していったからこそ、その辛さに耐え今日の基礎が出来たのだと感じます。色々な示唆がこの町には感じられます。

現在、その広葉樹林が「世界遺産への登録」される事を目標に掲げ、前向きな活動をされているそうです。

注) 有機(栽培)農法—農薬、化学肥料などを使わず、自然の力、摂理を利用して育てる農法。現在、それを極めようとする余り自然のバランスを崩すなど一部では問題も出てきている。綾町の有機農法の現状はどうか分かりません。

第43話 平成19年6月26日

● 「綾町」が示唆するまつりごとのあり方 ～大切な事～ (その2/2)

さて、明治時代の半ばに今日の東京都の基礎を作った「後藤新平^{しんぺい}」と言う方がおられたのですが、その方の遺した示唆に富んだ言葉があります。

(組織を運営する上で) 人は「金を残すのは下だ」

「仕事を残すのは中だ」

「人を残すのは上だ」

と言うものです。

綾町の郷田町長は体を張り、命を掛けて新たな産業を遺し、更に未来を拓くためにすべき事は何かという事を問い続ける仕事を遺し、人材(財)を残し、その結果、町にお金を残しました。後藤氏の言葉にある「人、事、金」が含まれているのですが、それらは町の理解者と共に築いた財産^{きず}なのです。お金は町民と行政の努力の結果生まれたもので、今やその豊かになった財政は町行政に反映され町民に還元され好循環を生んでいます。お金を先に求めるのではなくその下地がしっかりすれば世間に認められ、自ずと潤ってくるという流れが、後藤氏の示した「上、中、下」の「順番」を意味するのだらうと私なりに解釈します。

つまり「やらのアカン事はきちっとやっていかな結果は出やへんデ」と言う事でしょうね。

もちろん出来ることなら、しんどい、苦しい事は避けて達成できるのが理想ですが、その為には関わる人たちが理解能力などを磨く努力をし、また心の姿勢が真っ直ぐである事などが大切でしょう。

最近、民間企業でも新興企業を始めさまざまな企業、特にワンマン社長の企業において利益(=金)のみに目がくらみ、顧客、社会、社員をないがしろにして会社が立ち行かなくなる事件が目立ちます。利益を上げる為の順番や手段をはき違えているのです。(中国の怪しい企業と変わらへんやん!!) どの企業にとっても利益を出す上で売り上げは当然重要な事ですが、企業が永く存続するためには、利益を出すまでの過程をも大切に事でしょう。私は、まだまだ未熟だと身の程を感じつつ手探りでその道を模索中です。

片やここ数十年、将来を見据えて考え行動している政治家や役人がどれほどおられたのか? 行政が民衆と共に潤うしくみを整えずして一方的に失政のツケのような税金や社会保険などの公的負担を増やし、片や利権は守ろうとする姿はあまりにも身勝手に醜いものを感じます。今や「公僕」(=皆の為に働く人-公務員、役人、政治家などの本来の姿) と言う言葉は、ほとんど死語となりました。

今の日本で個人の利益、権益、目先しか追わない姑息(一時しのぎ)な政治、行政、役人が横行しているのを見てると今日の日本が荒廃している責の一旦があると確信します。それを選んできた我々選挙民にも責があるし、民衆がその勝手を許してきた結果でもあるのでしょう。随所に「お上」を意識する国民性もその原因の一助を担っていたのでしょうが・・・

今後の選挙で有権者はどんな意思表示をしてゆくののでしょうか? それとも「アホらしゅうて選ぶ人がおらへんデ」としたら悲しくも由々しき事なのです。

おまけ 中国自転車産業の現状

生産台数6, 700万台で世界シェア6割

その内、昨年の輸出数は5, 600万台で前年比4. 5%の伸び

自転車メーカー数、881社(小規模を含むと1000社以上)

生産金額日本円換算で約7250億円(=518億3000万円)

一方で、国内の需要は都市部を中心に伸び悩む

その理由は

① 公共交通の普及による自転車離れ

- ② 道路整備は、高速公路（高速道路）など自動車中心に偏り自転車、歩行者は軽視されている
- ③ 自転車での移動に危険や不便さを感じ、自転車の利用をやめる
- ④ 自**動**車を購入したので不要となった

など、過去にテレビなどで見た都市部の「自転車の洪水」の風景は今は昔となった。

中国では自転車保有数が5億台のうち400万台が盗まれると言う実態があり「どうせ盗まれる」との意識から安い自転車しか売れない（利益率が低い）。つまり自転車の高級化を押し進めても売れない環境にあるのが現状。高級化を進められないとなれば技術の向上、品質の向上は望めない。

また、輸出台数が多い中、欧州に不当に安い価格（ダンピング）で輸出している事に対し、反ダンピング課税の制裁を加えている。また、自転車自身や部品に対する品質基準が高まりそれに対処できないメーカーがほとんどである。すなわち、現状では低価格と言うこと以外の利用価値は無い状態である。

中国市場での頭打ちと、高級化への対応環境、能力が整っていないことから中国の自転車産業は転換期にさしかかり輸出に暗雲が漂い始めていると言う。

また、輸出においても人民元高、材料高を始め、7月からの4%の実質増税（輸出関連税）が中国の輸出主体の製造業に重く押し掛かるとされる。

第44話 平成19年7月3日

● 平野郷（杭全神社）の夏まつり～大阪市内で一番早く、最も規模の大きいだんじりまつり～
平野郷の夏まつりは7月11日から始まると思われているのですが、実は7月1日の杭全神社の「無事遂行祭」でまつりが始まるのです。大阪市内では最も早く山車がでる夏まつりの幕開けです。市内でだんじり、布団太鼓、枕太鼓、神輿など山車や山が出る夏まつりは、主に「悪霊退散」「疫病退散」が主旨とされます。その昔、夏には衛生状態も現在と比べるべくもない悪い環境で「赤痢」「コレラ」など疫病がしばしば流行していました。それらは、「悪霊」「神の乱心」の下に「疫病」「災い」が起こるとする迷信めいたものがあり、それぞれの神社に祀られている「神さん」に「みんな元気にまつりをしているから神さん、悪い病気を流行らせんといて。災いを起こさんといてナ」と言う気持ちを山車などで勇壮な「まつり」という形で表現し、現在に継承されているのです。大阪市内では、一般にひとつの神社に1つの氏子の山車(複数もあり)があり、神社の地域単位でまつりが催されるのですが、平野の場合、杭全神社は神輿と布団太鼓を持ち、旧平野郷内の氏子がある九つの町がそれぞれ1台づつのだんじりを持っています。つまり、「布団太鼓と神輿は神社主催のまつり」「だんじりは町衆主体のまつり」と言うことで他の地域とはその作りが違います。約300年前、平野郷が堺と並ぶ商人の町だったことで財力が有り、平野郷のまつりの基礎が出来たのです。

神輿と布団太鼓はそれぞれ九つの町が毎年輪番（決まった順）で担当の町の氏子総代を通じて神社から預かり、平野郷域を練り歩くのです。その当番が回っている町はだんじりと両方の面倒を見る4日間のまつりとなるのでかなりしんどい目をします。特に布団太鼓の担当町は「願人（＝親の願いを託された子）」と言われる太鼓の敲き児が担当の町内で数十人選ばれ、その世話も含め大変なのです。

また、平野郷の夏まつりは、地元の自治会の区割りとは関係無く、昔の町割り（区域割り）で九つの町があり、いわゆる自治会の「青年団」がないのも特徴です。参加町衆は各町氏子総代を筆頭に大まかに「世話人」「若い衆」で構成された任意の団体なのです。（まあ、いわゆる「まつり好き」の集まりです）したがって、自治会の補助金など行政からの金銭的な支援は無く、地元の方々の寄付で運営しているのが誇りの一つでしょうか？その為にも寄付を頂いた方々の期待を裏切らないまつりをするのが大切なのです。一方、任意の集まりとは言え、現在は九つの町で十数年掛けて「平野郷夏まつり実行委員会」という組織を作り込んだ

結果、行政を始め、警察、消防などへも協力依頼の働きかけが出来る力ある団体となっており、昔ながらの「単なるまつり好きのアホの集まり」ではありますが、単にそうとも言えない部分も芽生えています。

おまけ 平野郷の夏まつりの日程と内容など

まつりは、7月11日～14日の4日間で、曜日に関わらず毎年固定されていますが、そのあらまは・・・

1 1 日一神社主催の祭り（川行、足洗い） 早朝6時から布団太鼓が神社を出発し、郷内を「これからまつりが始まりませ」という触れ太鼓と同時に神輿が通る道を清める意味があると聞きます。その日は、神輿と布団太鼓が練り歩くのですが、その日の神輿には「御神体」は乗っておらず飾りがついていない「裸神輿」です。その晩の宮入後、神社本殿に鎮座している「御神体」を神輿に遷す「神遷し」と言う神事が執り行われます。御神体を乗せた神輿はきらびやかに飾られ、拝殿に鎮座し、残り3日のまつりを見守るのです。

この日の朝には「足洗い」と言う行事があり平野公園の近くで神輿の清める神事が行われ「川行き・足洗い」と言います。昔は、平野川の水で神輿の足を洗い清めたので、その名残の儀式とか・・・今の水ではかえって汚れます（^^；

1 2 日一町衆主体のまつり だんじりが平野郷内を中心に曳行し「花」といわれる祝儀を頂くと、だんじりをその前で止め、囃子も特別な敲き方に変えて礼をします。（大阪と同じ節回しで敲かれます）この日は、夜の10時頃から南港通りに九台のだんじりが揃い踏みする勇壮な「九町合同曳行」が約30分間、披露されます。

1 3 日一町衆主体のまつり（だんじり宮入） 12日同様、だんじりが昼間に郷内を曳行し、この日の夜は宮入となります。夜の7時過ぎから順次だんじりが「元気で勇壮にまつりをしてませ〜」と言う姿を神さんに見てもらい、神社の境内に入る「宮入」が始まります。町衆は「だんじりが鳥居をくぐったら今年の自町のまつりが終わってま〜」と思うので、なかなか鳥居を突破しません。鳥居前でだんじりを入れる入れないのせめぎ合いが醍醐味の1つで、見物人も心得ています。夜の11時過ぎには九台の宮入は終了し、宮入が終わっただんじりは夜中の1時頃から順に神社を出て自町に帰ります。全部のだんじりが各町に戻るのには夜中の3時頃でしょうか？

1 4 日一神社主催の祭り（渡御） 朝の少し遅い時間に布団太鼓と神輿が順次神社を出発し郷内を練り歩きます。「神さん（御神体）」が乗っている神輿で郷内を清め「（御旅所（＝神輿の寄る場所））のある各お寺で神事が行われます（清祓式）夕方、布団太鼓が宮入した後に神輿が宮入（渡御）するのですが、だんじり同様「鳥居を超えたら平野のまつりは終わってしまう〜」との思いからなかなか宮入が終わりません。そのせめぎ合いも見所でしょう。神輿が宮入を終わり、再び拝殿に鎮座し、その夜の11時半頃には「神遷し（神戻し）」という神事があり、その時には境内に明かりが完全に消され、真っ暗な中で「御神体」は本殿に戻されます。「御神体」が移動する方向にその周辺だけ「瑞喜」と呼ばれる風が吹き、私も体感した事があります。（気のせいかも（^^；・・・）その御神体の正体は鏡とも石とも言われますが誰も知らないのです。しかし実際、「神さん」を意識してまつりに出ている町衆はあまりいないかも・・・

「神遷し」をもって平野郷の夏まつりが終わり、大阪は夏本番を迎えるのです

第45話 平成19年7月10日

● 東京ディズニーランドちょっといい話 ～マニュアルを超えた人とのふれあい～

学校はそろそろ夏休みが近づき子供たちは気もそぞろになっている頃かもしれません。知り合いに「東京ディズニーランドへ行ってくるねん！」というもおられるかも知れませんね。

さて、ある日、その東京ディズニーランドで開業しているレストランに食事に来られたご夫婦が2人席に座りお子様ランチを2人分注文されたそうです。そのレストランでは、「9歳以下の子供以外にはお子様ランチを提供しない」とマニュアルに定められており、当然のように店員は断りに行きます。その際「誠に申し訳ありませんが、お子様ランチは、大人にはだせません」とは言わず「お子様ランチは大人のお客様には出せないのですが、よろしければ理由をお聞かせ願えないでしょうか？」と柔らかく聞いたのだそうです。

そのご夫婦は1年前に幼い娘さんを亡くし「今日が一周忌で、娘を偲んでディズニーランドに来ました」と伝えたところその店員は、そのご夫婦を4人席に移動してもらい3人分のお子様ランチを出したとの事です。

その後、ご夫婦から手紙が届き「その節はお世話になりました。おかげさまで娘と一緒にいるように感じました。ありがとうございます」と言う感謝の手紙が届いたそうです。

このように対応が出来たのは「そもそも、お客さんはディズニーランドに何をしに来られているのか」の根本をしっかり理解しているからこそ対応出来たのだと思います。その資質も素晴らしいですが、マニュアルを超えた機転には教えられるものが有ります。

マニュアルを定める事はサービスの均一化をする為に現代では必要なものですが、時には本当に人の心に響く対応の前では無力な事があるようです。それは、その従業員だから出来た機転なのかも知れません。うわべのサービスではなく、人の気持ちを推し量って対応できる人がおられるのは素晴らしいことですね。

第46話 平成19年7月17日

● ラムネ瓶 ～とことん環境に優しくった究極の容器～

本格的な夏となりますね。かつて、日本の夏の風物詩の一つとして、「ラムネ」という炭酸飲料が主役の一つであった時代がありました。ガラスで出来たビンの口にガラス玉で栓がしてあり、その玉を専用の栓抜きで玉を落とし込んで開封するといったものですね。ビンの上部がすこしくびれおり、そのくびれを使ってうまく玉を止めて飲む面倒さを懐かしく思い出す方もおられる事でしょう。今では、ガラス瓶のものは少なくなり樹脂の容器になったりして情緒は今ひとつ、と感じる向きも多いと思われます。

ラムネは以前にも取り上げましたように「レモネード」が外来語として日本語になったレモンやライム(の香料)が入った甘みのある炭酸飲料なのですが、第二次大戦中に大日本帝国海軍の戦艦にも乗組員の為にラムネ製造装置が設置されていたほど戦前から庶民に親しまれていたものなのです。

初めに書きましたように、ラムネ瓶はガラス玉で栓をしているのですが、その工程は、飲料を注入したらすぐにビンをはっきり返し、ラムネ自身の炭酸圧力のみで内側から玉を押し付けて栓にするという極めて原始的ではほえましくもある方法なのです。

そのビンは、約25回ほど再生使用され、ビンとセットのガラス玉(=捨てることの無い栓)を考えると、廃棄するまで、また、廃棄してもほぼ丸々再生できる極めて環境に優しい容器だったのです。物資の無い頃の知恵が生んだものの一つでしょうか？環境的には、文句の付けようのない容器ですね。この容器構造の発祥は英国なのだそうです。

数年前、アサヒビールが「リターナブル(返却し、何度か再利用できる)」を謳い文句に缶ビールに代わる

環境対応した中瓶のビンビールを市場に出したのですが、時期尚早で消費者に受け入れられず消えてしまった事がありました。いずれ形を替え再登場する日があるでしょう。ペットボトルのような薄くて軽くてしなやかで安全なガラスが開発され、何度も使える容器が出来るかも知れませんし、また容器を繰り返し使わざるを得ない状況がくるかも知れません。

ちなみに、ラムネビン用の規格ガラス玉をA玉と呼ぶそうで、その規格外れの玉はB玉（ビー玉）とされるのですが真偽の程はわかりまへん～（^o^;?）
いずれにせよ私には懐かしく思えるものです。

第47話 平成19年7月24日

●「いやぁ～んH!!」

って言う「H」ってどこから来たんでしょうか？意味合いとしたら「スケベー」と言うのをちょっと軽く表現？したものだと思っています。

さて、明治の末期に英語の「ABNORMAL（アブノーマル）」の訳語として「変体（態）」というのが紹介されたのだそうですが、この単語の訳は本来「正常でない＝異常」なのです。しかしながら、なぜか紹介された訳語は「変体」。これは大正から昭和にかけて流行語となったらしいのです。すなわち語源は「HEN TAI（変体）」の頭文字の「H」と言うことですか？・・・

ちなみに本来英語で「変体」とは「CREEP（クリープ）」などと言い全く違います。

また、別の説によりますと使われ始めた頃はホモの意味だったそうで、大正時代には男性の同性愛者を指す隠語として雌鳥を表す言葉が使われていたそうです。鶏の雌鳥は英語で「HEN（ヘン）」と言い、その頭文字から「H」がその言葉の隠語になったと言うのが別の説です。まわりくどい強引な説ですが・・・単純に「HOMO（ホモ）」の頭文字が自然ですやん。

とても「スケベ～を軽く表現している」とは思えない内容の説ですね。

いずれの説にせよアブノーマルですやん（x。x）

この話題自体、変態趣味!?

現在、英語教育などのおかげで「H」は「エイチ」と発音するのが日常ですが、この話題に関しては、昔ながらの発音「エッチ～」がまかり通るのはいかにも日本的ですね

ちなみに、コーヒーに入れる「クリープ（C R E A P）」と言う粉ミルクがありますが、前出の「C R E E P」と発音が同じ事から「コーヒーにクリープ」の宣伝文句は、アメリカ人には「コーヒーに“変体”」となってしまう在日のアメリカ人はその宣伝が流れると喜んで笑っていたそうです（^o^）

以前に書きました「”カルピス”が”牛のオシッコ”と聞こえるので欧米向けには”カルピコ”と名前を変えた」と言うのと似たようなものですね。

また、有名なブリジストン（B r i d g e S t o n e）と言う会社は略してBSといますが、英語では「B u l l S h i t!!（ブル シット！＝牛の糞）」（＝クソッタレ、バカヤロー）と言うののしり言葉があり、その略が「BS」で同じなのです。（洋画の中でもよく言ってます）アメリカ在住の自転車業界の先輩、小野沢氏は1986年頃、親しくされていたBSアメリカ（自転車）の当時の社長にその事を問題提起され、数年後アメリカ向けの自転車から「BS」のロゴマークが外されたと言うことです。

おまけ

最近の企業倒産の特徴など

今年の1～6月の企業倒産件数は、5,394件で前年同月より16.6%上回っている。片や、負債総額は2兆5700億であるが8.3%減っている。大型倒産が減り、小口の倒産が増えた事を示す。

その内容として

- ・ 自治体が経営している第3セクターの破綻が多い→財政悪化の自治体はその処理を進めているため
- ・ 中小零細企業の倒産が多い→銀行融資の条件が厳しくなった

倒産のパターンとしては

- ① 法令違反による倒産→談合摘発、不正会計、なんらかの不正の表面化
 - ② 原料燃料高騰による倒産→原材料などの値上がり分を売り単価などに転嫁できない（製造、運輸等）
 - ③ ベンチャー失敗→企業家の経営手腕の未熟さ、見透しの甘さ（コンピューターサービス及びソフト、介護サービス等）
- ①②③の複合型も有り得ると言う。

※今年後半にも貸し出し金利の上昇が見込まれ、借り入れの多い企業、今後借り入れを必要とする企業は更に苦しくなるとされる。

第48話 平成19年7月31日

● お金の集まる場所に^{うごめ}蠢く？お金の集まるシクミを創る？（やぶにらみの私見）

「年金問題」が報道などで大きく採り上げられ、大騒ぎになっているのは周知の事ですね。年金納付記録などの問い合わせについては、「人材派遣会社」に委託しそれに対処しているとされます。その派遣の人件費はどうなっているの？社会保険庁が全員で死に物狂いで対処したらええんとちゃうのん？社会保険庁の職員も休日返上で対処していたけど休日出勤手当はきっちり貰っているんとちゃうの～ん？とってしまします。もし、そうならば返上した「夏季賞与」の分を埋め合わせする手当として「休日出勤手当」が出ているのかも～って意地悪く見てしまします。今いる職員全員に責任がある訳ではないのですが一般企業ではほぼ有りえないことです。片やその「派遣に支払う人件費」はそもそも税金なのですが元々判っていることなら、もっと昔から対処しておけば何ら支払う必要のないムダ金なのです。嗚呼ムダ遣い！そこで思ってしまうのは、このように大きなお金が動く時には別に大きな力が働いているのでは無いか？と言う懸念です。グッドウィルと言う派遣会社も使っていたように報道されておりましたが、それは時の話題の会社をわざと公表して目くらましをし、一方では社会保険庁の外郭団体の息の掛かった派遣会社に依頼をしていたのかもしれない。そうならば支払ったお金の一部が支払い側の誰かに密かに還流されている火事場泥棒！？な～んて邪推のやぶにらみをしてしまうのです。臨時雇いの素人などの入力ミスでえらい目に逢うたんとちゃうのん！？またまた派遣会社に任すのオ～？外郭団体は専門知識が必要と言う事で作ってるんとちゃうのん！？その場をとりつくろう姑息な釈明は一貫性が無く納得がいきませんね。お勉強の出来た頭のいいはずの人たちの集まりなのにね。

ところで関西空港は開港してこの9月で丸13年（1994年9月4日開港）となるのですが、間際まで「浮きドック方式」にするか「埋め立て方式」にするかで大きく揺れていたのを記憶しています。「浮きドック方式」は当時、鉄鋼不況と造船不況がもたらした業界案なのですが、私は「浮きドック方式」になるやろな？と考えておりました。当事の資料では先々の保守点検が楽な事を始め、総工事費も抑えられ、環境面から見ても埋め立てよりも優るとされていたからです。もっとも、浮きドック工法では鉄鋼の特需で鋼材の値上がりが懸念されていましたが……。結果は「埋め立て方式」採用となりました。当時の業界の力関係を示す「政治家献金額」の差もあるんでしょうが更に「埋め立て方式」にはおいしいおまけ[¥]が沢山ついてくるのが暗黙の了解だったのです。それらは「埋め立て土砂（採取、搬送）の利権」。海などを埋め立てて出来た

土地は必ず沈下するのでそれに対する「補正工事予算」また「先々滑走路を増やす時に同じ工法だとまたおいしい」などなど・・・初期費用と補修費用で非常に高くついた結果、公的な補助金があっても関空はなかなか黒字転換できなかつたのです。しかも世界一高いとされる離発着料金。一連の事業で支払った高～いお金はどこにどう回って行ったのかは非常に興味あるところです。また、埋め立てたら地盤沈下はどれ程になるか？と言う事は実験結果に基づいているのですが、現実はその実験結果をはるかに超えて沈下しています。それを担当した建設会社はその実験報告と現実との差に結果責任を取っていないばかりか沈下対策の追加工事に関わって更に工事をする。まさに、泥棒に追い銭の状態と言われるかも知れませんね。ことある毎に首を捻^{ひね}りたくなる税金などの使い方が明るみに出るにつけ公金の使い方については私もひねくれた見方しかできなくなってしまいました。

最近では、高速道路の ETC 利権も大きいよ～！ETC 装着でお金が転がり込む、ETC のゲート設置でも高額のお金が転がり込むシクミが国土交通省の天下り打ち出の小槌外郭団体としてあるのです。少し前の資料ですが、そこは十数名の法人なのに収入が数十億円もあるにも拘^{かか}らず通常の人件費の支出では考えられないほど少ない残高しか残っていない。どんなけ天下りの輩がむさぼるとんねん！何でも打ち出の小槌にしようとする愚はなんとか成らんねやろうか？それらの根拠無き利権や公的存在意義のない外郭団体を無くす事により我々の社会的負担はぐっと減り、行政予算も削減できるのです。どこが政治の主導権を持つにせよ、さまざまな事に納得が行くまつりごとをお願いしたいものです。

だから私は ETC に加入しない・・・って子供みたいやね～ でも、料金所で事故の多い欠陥装置やしね～/(^o^);

第49話 平成19年8月7日

● アナウンサー そのむかし、よもやま話

あすから夏の甲子園、高校野球が始まります。プロ野球はこの時期、夜の試合が多いのですが高校野球は朝の早くから夕方までの暑い時間帯に開催されますね。その時甲子園にいる大多数の人たちが暑さに耐^たえてそれぞれの持ち場をこなし、または応援しているのです。その中でも放送担当のアナウンサーも例外ではありませんね。

さて昭和20年代、放送局は「日本放送協会（NHK）」しか無くいわゆる民放は無い時代でした。大阪に民放が始めて出来たのは昭和26年で「新日本放送」という現在の毎日放送の前身と言うことだそうです。当事、アナウンサーと言う職業はそうそう耳にするものではなく、その募集広告は電信柱などに貼られた粗末なチラシ広告だったそうです。その文面は「アナウンサー募集！来タレ！」と言うようないい加減な？内容であったとか。「アナウンサーとは何ぞいや？」と言うその知識が無い人々までも職を求めて応募に来たのだそうです。晴れてアナウンサーになったものの彼らのしゃべりは大阪弁丸出しで今聞けば大変面白いものだったのかも知れませんね。

一方、今で言うディレクターと言う人材も民放にはいなかったのも「新日本放送」はNHKから和田氏と言う「音の達人」を迎え入れたそうです。当時家庭にはラジオしかなく、音の演出が非常に大事だった事もあり音の職人とでも言う方がおられたようです。その和田氏の逸話には水に放り込んだ魚の形を水音だけで言い当てる。また、新人アナウンサー募集の面接で応募者がしゃべっているのを聞き「君、奥歯の虫歯を治療してから出直して来なさい」と言った事もあるそうです。もちろん履歴書に「虫歯有り」なんか書いている筈ありません。まさに職人！

ところで、アメリカの故レーガン元大統領は、元々アナウンサーであり、彼の大リーグのシカゴ・カブスの試合中継は人気があったのだそうです。当時は中継技術が充分でなくテレックス（電信による文書）で送ら

れてきた試合の様相をあたかも目の前で見ていたかのように放送していたと言うことです。凄いと感じつつ、なんかほほえましい風景が頭に浮かびます(*^_^*)

ある日、その中継の真っ最中にテレックスが故障し、試合の状況がまったく分からなくなったことがあったそうです。その時、彼は少しもあわてず試合を想像で頭に描いて中継？し続けたのだそうです。その時から大人物やったんでしょね。今やったら、番組内容の捏造^{ねつぞう}でえらい事になってるかもしれません。

そのレーガンの運命を変えたのが、メガネを買いに言った時に受けた勧誘です。

「君、俳優のオーディションを受けて見ないか？」と誘われ応募し俳優業に転じたのです。後に俳優組合の組合長となり、それがきっかけで政治の世界に足を踏み入れる事となったのだそうです。

レーガン大統領の任期がもう間もなく終わろうかと言うある日、何十年ぶりにシカゴ・カブスの試合を1 イニングだけ実況中継をしたのだそうです。その後の記者会見で「大統領。なぜ今になってまた中継をしたのですか？」という質問に対しレーガンすかさず「もうすぐ仕事が無くなるからアナウンサー試験を受けたんだよ」と答えたそうです。さすが機転のきいた答えですね〜(°o°)

また、大阪の元アナウンサーは、サングラスをかけて夏の高校野球を中継していた時に、サングラスで少し暗く見えた甲子園球場を「夕暮れ迫る、この甲子園・・・」と言ってしまったところ、ディレクターがあわててそのサングラスを取りました。そのアナウンサー少しもあわてず「再び明るくなった甲子園・・・」と・・・アナウンサーは頭の回転と共に遊び心も大切ですね。

第50話 平成19年8月21日

●「ステテコ」よもやま話

昭和の昔、夏になると夕方に家の軒下に椅子など出して打ち水をし、団扇でパタパタ扇ぎながら涼を取ると言った風景が良く見受けられました。男はダボシャツに丈の短い生地^{いす}の薄い半パンのような下着姿で椅子などにへたっていると言うものでしたか・・・その半パンのような下着は「ステテコ」と呼ばれ、夏の暑い時でもズボンの下に履いていると少しはマシになるとか。

しかし「ステテコ」とは奇妙な名前とは思いませんか？

大阪商人を中心とした題材で脚本を書いていた花登^{はなとこぼこ}という劇作家の原作で1970年代に放送された「あかんたれ」と言う大阪商人を題材とした番組がありました。その中で「冬に売れ残った股引^{ももひき}（パッチ？ズボン下？・・・かも）をどうしたらええやろか？」という場面があり、みんなが話し合った結果「下半分を切り捨てて夏用に売ったらどないやろか？」という妙案が出た、というものだったと記憶しています。

その時「ほんなら商品名はどないしょう？」と言うことになって出演者達は頭をひねり、色々な意見が出て「下半分を捨てるんやから、半分捨てとこ・・・捨てとこ・・・ステテコ！これやがなっ！」と言う事で「ステテコ」の呼び名が生まれた場面が印象に残っています。放送（再放送？）の当時、私も損場面を見て「なるほど〜」と妙に納得^{なっとく}していたものです。番組内ではある落語家に「ステテコ」を奨め、使ってもらおうとしていた場面があったと記憶しています。実際には明治時代の落語家が「ステテコ踊り」をしていた時に着物の裾から見えていたこの下着がこの踊りと共に評判となり、踊りの名前から「ステテコ」と言う名称になったのだとか。しかしながら本来「ステテコ踊り」の名称はどこから由来したのかは分かりません。落語家だけに、意味は無いけど面白い言葉の響きを求めた結果「ステテコ踊り」と言う滑稽な（おもしろおかしい）呼び名を思いついたのかもしれませんがね。その事を番組の脚本で絡めたのかも知れませんが真偽の程はわかりまへん〜

ちなみに、^{きるまた}猿股と言う下着（今で言う下着のパンツの原型）は、股引の短いものが流行した時に、猿回しの際に猿にはかせた股引がそれとそっくりなため「猿股引」と呼ばれ、縮まって「猿股」となったとされます。

クーラーの無い昔にいろんな工夫をして暑さをしのいでいたなあ、と思い出しながら書きました。

第51話 平成19年8月28日

● 信州の名物「野沢菜」は大阪からお嫁入り!?

盆休みの明けに「信州へ行ってきたでエ」と野沢菜のお土産をもらった方もおられるかもしれませんね。驚く無かれ、野沢菜は元々大阪の天王寺出身なんですよ〜!!

と言うのも、その昔（1756年）信州の野沢村にある健命寺というお寺の住職が京都の寺へ修行に行った時に浪速の天王寺^{かぶら}蕪を食べたところ、余りにも美味しかったのでその種を持ち帰り、寺の畑で栽培しようとしたのがその始まりとされるからです。

天王寺蕪とは大阪が原産の扁平な蕪で皮、根共に白く千枚漬にできるほど大きな蕪なのです。大坂夏の陣の後、四天王寺付近に戦で荒れた土地を復興するべく蕪の種を蒔いたところ大層おいしい蕪がとれ、それを干蕪などに加工するなどして全国に出荷され、そのおいしさ故有名になったのだそうです。

しかしながら温暖な地域出身の天王寺蕪にとって信州に持ち帰った種は信州野沢村の寒冷な気候や風土では蕪（根の部分）は育たず葉だけが大きく育つばかりで当初は住職さんも「あの蕪が食べられないのか」とたいそうがっかりしたそうです。でもそこは人の知恵、その葉を漬物をはじめさまざまな料理に使ったというのが食材としての野沢菜の始まりなのだそうです。そして今でも健命寺では野沢菜が育てられており野沢菜の元種を供給していると言う事です。

ところで、江戸から明治にかけて約300年間栽培され続けた天王寺蕪ですが明治末期の害虫被害、都市化などで生産量は減りその栽培はほぼ途絶えてしまいました。しかし、最近になって「天王寺蕪の会」が発足し、その復活に努力しているとの事です。しかし、種は同じでも環境が違えばこれだけ育ち方が違うのですね! 植物の環境順応力、生命の不思議にはただただ驚くだけです。

ちなみに当時の天王寺村（てんのじむら）に住んでいた俳人の与謝蕪村もその蕪が好物の一つで「蕪」を使って俳号を考えたとされます。

おまけ

原材料の価格高騰が企業の収益や影響にどう影響を与えるかについての調査結果。

鉄鋼、アルミなどの原材料価格の上昇分の8割以上を製品価格に転嫁できている中小企業は6.6%にとどまった。大企業でも約8割が今後、製品価格に転嫁するのは「困難」「やや困難」との見通しを示している。

おまけ ~丸一年~

丸一金属の会議資料の中に「余談」を書き始めておかげさまで1年経ちました。初めの頃は、話題に少々苦勞し、文章も拙かった（今でも…）のですが、過去の記憶をたぐり自らの経験や、見聞きした事、疑問に思う事、感じる事などいろんな話題に注意して題材になりそうな事を選んできました。またこれらの文章は社外の方々にも読んで頂いているのですが、その方々からもお叱りや話題のヒントを頂けるのも在り難いことです。その結果、今後の話題として60話以上のネタを持つようになり「少なくともあと1年は行けそうやな」と思っています。話題は私の興味に偏ってしまいがちなので、できるだけ分散する努力をしていますが

どうしても好みの傾向が出てしまいます。また、時には文章が長くなってしまい過ぎ、短時間では読みにくくなってしまふ事があるのも反省点と感じます。新聞の社説は同じ記者（論者）が毎日決まった枠^{わく}の範囲で伝えたい事をきちっと収めて書いているのはすごい事やな^アとつくづく感心します。

※次ページから「地震の備え」があります

今からできること、しておくべきこと

吉村 英祐

あの阪神大震災から 10 余年。今後 30 年以内に、大きな地震と津波が来るともいわれている。どんな人でも、突然の災害時には心理的パニックが襲い、激しく動揺するものだが、障害をもつ者が、避難の際、より困難な状況下に置かれるのは事実である。

地震が来たらどうするか。改めて地震時の対策について、見直してみよう。

大阪と地震

地震国・日本にあって、阪神・淡路大震災（1995 年）以前は、大阪をはじめとする関西地方は大地震が来ないという「神話」があったことは、記憶に新しい。だが、歴史をひもとくと、関西も繰り返し大きな地震に見舞われてきたことがわかる。阪神・淡路大震災以前に大きな被害が出た地震は、1946 年の南海地震までさかのぼらなければならないが、その 2 年前の 1944 年に東南海地震（死者 1,200 人）、1936 年に河内大和地震（死者 9 人）、1927 年に北丹後地震（死者 2,900 人）、1925 年に北但馬地震（死者 430 人）が発生している。これらを見ると、関西は地震が少ないなどと、とても言えるものではない。第二次世界大戦の悲惨な経験や、戦後にジェーン台風（1950 年）、伊勢湾台風（1959 年）、第二室戸台風（1961 年）という超大型台風があいついで襲来したことで、関西から地震の記憶が消されてしまったのだろうか。

南海・東南海・東海地震

阪神・淡路大震災以降、鹿児島（1997 年）、鳥取（2000 年）、広島（2001 年）と、西日本各地で大きな地震が発生している。これをもって、西日本全体が地震活動期にはいり、その行き着くところが南海地震や東南海地震だという説がある。一方、東海地震は、およそ 100～150 年間隔で繰り返し発生する巨大地震で、安政東海地震（1854 年）からほぼ 150 年が経過した現在、いつ発生してもおかしくない状態である。安政東海地震のときには大阪湾にも津波が押し寄せ、道頓堀に架かる橋が流されたという記録が残っているから、震源が遠いからといって安心はできない。また大阪は有史以来、直下型地震の記録がないが、大阪市内には上町断層が南北に走っており（上町台地は上町断層がつくった地形である）、もしこれが動いたら大阪市内で震度 7 の揺れになり、阪神・淡路大震災以上の大きな被害が生じると予測されている。

1994年の秋、私たちは主に阪神間に住む下肢障害者の方々を対象に、火災時の避難に対する意識をたずねるアンケート調査を実施した。ところが、アンケート用紙の回収をほぼ終えた直後に阪神・淡路大震災が起こったため、前回調査から1年後の1995年11月に、地震時の避難状況やそのときの問題点をたずねる設問を加えて、再度アンケート調査を実施した。以下に、調査結果の概要を示す。

(1) 地震時の避難行動について

- 室内の家具が転倒したり、ガラスなどが散乱したため、室外への避難が大きく妨げられた。
- 停電により、エレベーターなどの機械設備が使用できなくなった。
- 地震発生が夜明け前であったため、停電とともに室内が真っ暗になったことが、地震直後の避難をいっそう困難にした。
- 介助者である家族がいっしょにいる時間帯であったため、屋外に出るときに介助してもらえた人が多かった。しかし、昼間や単独で外出中であったり、大勢の人が利用する施設（デパートや地下街など）では十分な介助が期待できない。
- 万一、建物の避難階以外で火災や地震にあった場合は、より早く救助してもらうために、自分の存在や位置を外部に確実に知らせる手段が必要である。

(2) 火災時にとると思われる避難行動の比較

震災前と比較すると、全般に「みんなが避難する方向についていく」人の割合が減り、逆に「他の階に階段で避難する」人の割合が増えている。震災を経験し、受動的な避難よりも自ら避難行動を起こす必要性を感じている人が増えたことがうかがえる。

(3) 避難にあまり不安を感じない階の変化

災害時に避難するときにおいても不安を感じない階について、震災前後で比較した。

震災前の調査では、184人の回答が集まり、「非難にあまり不安を感じない階」として、地下3階以下で約3%、地下2階で約4%、地下1階で約26%、1階で100%、2階で約47%、3階で約16%、4階で約4%、5階・6階・7階以上では約3%となっている。しかし、震災後に再度調査を行い、109人の回答をまとめた結果、地下3階以下・地下2階・4階・5階・6階・7階以上では0%となり、地下1階で約16%、1階で100%、2階で約26%、3階で約4%となった。

日常の行動能力に関係なく、1 階（避難階）以外を選んだ人の割合が震災前よりも減っており、また不安を感じない階の範囲が狭くなっている。震災前は 4 階以上、または地下 2 階以下でも不安を感じない人がいたが、震災後の調査ではいなくなった。震災の経験が、避難階以外の階にいることの潜在的に持っていた不安感を呼び覚ましたといえよう。

(4) 避難するときの助けとなる場所や設備

震災前の調査で、避難するときの助けとなる場所や設備として期待が大きかったのは「屋外スロープ」、「階段室」、「一時待機場所」であったが、震災後の調査では、自力で歩行や階段昇降ができる人による「屋外スロープ」への期待が高まり、階段昇降ができない人による「一時待機場所」(ARA) への期待が高まっている。ここで、「一時待機場所」とは、ADA（障害をもつアメリカ国民法）において、避難階段を降りて避難できない人が、助けが来るまでのあいだ安全に待機できる場所として示されているもので、火災による炎や煙から守られ、階段避難を妨げない位置に車いすが 2 台置ける広さがあり、外部とインターホンで連絡をとれるようになっている。日本でも最近、一時待機場所の設置基準が示され、今後の普及が期待される。

地震に対する日頃の備え

1999 年に東京都障害者震災対策検討委員会が発行した「災害弱者防災行動マニュアルへの提言」（参考文献 2）をもとに、地震に対する日頃の備えを整理する。

(1) 地震についての話し合い

地震発生時の具体的な避難方法、避難経路、家族への連絡方法、待ち合わせ場所、役割分担などを、家族や身近な介助者および職場の人と話し合っておく。

(2) 身のまわりの安全点検と対策

生活している場所が地震で倒壊するおそれがないか、家具の転倒のおそれがないか、高いところに重たい物を置いていないかなどを念入りに点検し、転倒・落下の防止策を講じる。とっさの行動がとれない人にとって、これはたいへん重要である。

(3) 非常持出用品と備蓄品の用意

非常持出用品・備蓄品として、一般的な防災グッズや食糧・飲料水（最低 3 日分）のほか、自分の障害や病気に関係するもの（薬なら 3 日分程度）

を必ず用意しておく。介助が必要な人は、介助者や救援者にわかりやすい場所に置いておく。

(4) 避難経路図の作成

自分が避難する避難所がどこにあり、自宅からどの経路を通るのがいちばん安全かを、事前に確かめて地図に描き込んでおく。多少遠回りになっても、ブロック塀のある道を避け、なるべく広い道を選ぶ。また、複数の経路を考えておく。交番、市役所、消防署、病院の位置や連絡先も確認して記入しておく。

(5) 防災手帳

防災手帳があれば、震災後に必要なことから（氏名、住所、電話番号、血液型、障害種類・等級、緊急連絡先、所属団体、治療中の疾患、服用薬の種類、食事上の注意や目安など）を記入し、外出時に携行する。地震により気が動転すると、簡単なことでも思い出せなくなることがあるので、これも重要である。

(6) 地域との交流

地震発生後に安全な場所に避難したり、避難所で安心して生活を送るためには、周囲の人々の協力が欠かせないので、日頃から積極的に地域の人々と交流し、顔なじみになるとともに、自分の障害を理解してもらっておく。また、障害者団体や社会福祉協議会などの活動に参加し、日頃から地域との交流につとめる。

地震が来たらどうするか

地震が発生したら、警察や消防は倒壊家屋の下敷きになった人や、大けがをした人の救助、火災の消火を優先するので、生命の危険がない人への対応が遅れる。地震時に自分をどう守るかについて、以下に簡単に整理する。

(1) 家にいるとき

姿勢を低くし、頑丈な机の下などにもぐる。転倒のおそれのある家具やガラス窓から離れ、揺れがおさまるまで待ち、火の始末をする。上からガラスや看板類が落ちてくることがあるので、あわてて屋外に飛び出さない。もし、家の中に閉じこめられたら、非常持出用品を手もとに置き、比較的安全な場所に移動して救援者が来るまで待つ。水道が使える場合は、風呂や容器に水をためる。夜間は、大声を出したり懐中電灯を使うと見つけられやすい。必ず誰かが助けに来ることを信じ、絶対にあきらめてはいけない。

(2) 外出しているとき

街路を歩いているときに地震にあったら、倒壊しそうな建物のそば、割れたガラスや看板類が落下してくる場所を避ける。デパートや地下街など、大勢の人がいる場所では非常口に人が殺到するので、それに巻き込まれないよう、係員の誘導や指示にしたがったり、周囲の人に援助を求めて避難する。

以上、地震への備えについて簡単にまとめたが、具体的な中身については、地震時の状況や個人差に応じて各自で考えなければならない。これらのなかには、すでにご承知のことが含まれているかもしれない。だが、あたりまえのことほど、意外と見落とされていたりする。今ほど「備えあれば憂いなし」の言葉を重く受け止めるべきときはないだろう。

最後に、皆で震災に打ち勝ちましょう。

【参考文献】

1. 特集「人にやさしい建築」『建築技術』No.598、1999年12月、株式会社建築技術
2. 東京都障害者震災対策検討委員会：

「災害弱者防災行動マニュアルへの提言～障害者およびその家族などのために」1999年3月

吉村郁祐 追記 参考資料

緊急持ち出し品の例 ～地震に限らず、他の天災や人災のために～

- ・非常時安全ろうそく(マッチ付)
- ・三角巾
- ・綿タオル
- ・防塵マスク
- ・懐中電灯
- ・単三電池
- ・パンの缶詰
- ・ミネラルウォーター
- ・レスキューホイッスル（笛－孤立した時の為に）
- ・すべり止め付軍手
- ・水コック付き飲料水運搬バッグ
- ・発電機付きラジオ（ライト、携帯電話充電機能が付いていると、なお良い）
- ・通帳番号の控え（名義、銀行名などは書かず番号のみ）

あとは、個人で必要と思われるものをすぐに持ち出せるようにしましょう。